

第2章 高齢者等の状況

1 構成3市町の概況

盛岡北部行政事務合を構成する3市町（八幡平市、葛巻町、岩手町）は、県の北西部に位置し、県都盛岡市と JR 東日本花輪線及びいわて銀河鉄道線並びに国道4号、281号、282号及び東北縦貫自動車道等で結ばれています。

3市町の総面積は、1,657.79 km²で県土の10.9%にあたる広大な面積を有しています。

3市町を取り巻く地形は、東部に北上高地、西部には奥羽山脈が南北に縦走し、岩手山をはじめ県内有数の山岳が連なっています。これらの山地の間を、南流する北上川、北流する馬淵川、西流する米代川の各水系からなる河川が流れ、主としてこれらの河川及びその支流の丹藤川、松川等に沿って耕地がひらけ、集落等を形成しています。

気候はおおむね内陸型で、気温の変化が大きく、夏は過ごしやすいが冬は寒冷であり、平地部の積雪は比較的少ないものの、西部の山間部では降雪量も多く、総じて冬期は道路・交通等の状況は厳しくなります。

歴史的には、史跡や縄文時代以来の遺跡等が数多く分布し、古代から中世、藩政時代を経て現在に至る長い歴史を有していることが窺われます。

また、山岳、高原、湖沼等の自然景観が見られるほか、豊富な水資源、森林資源等に恵まれるなど、豊かな自然やぬくもりのある風土を形成しています。

2 人口推移

(1) 総人口の推移と推計

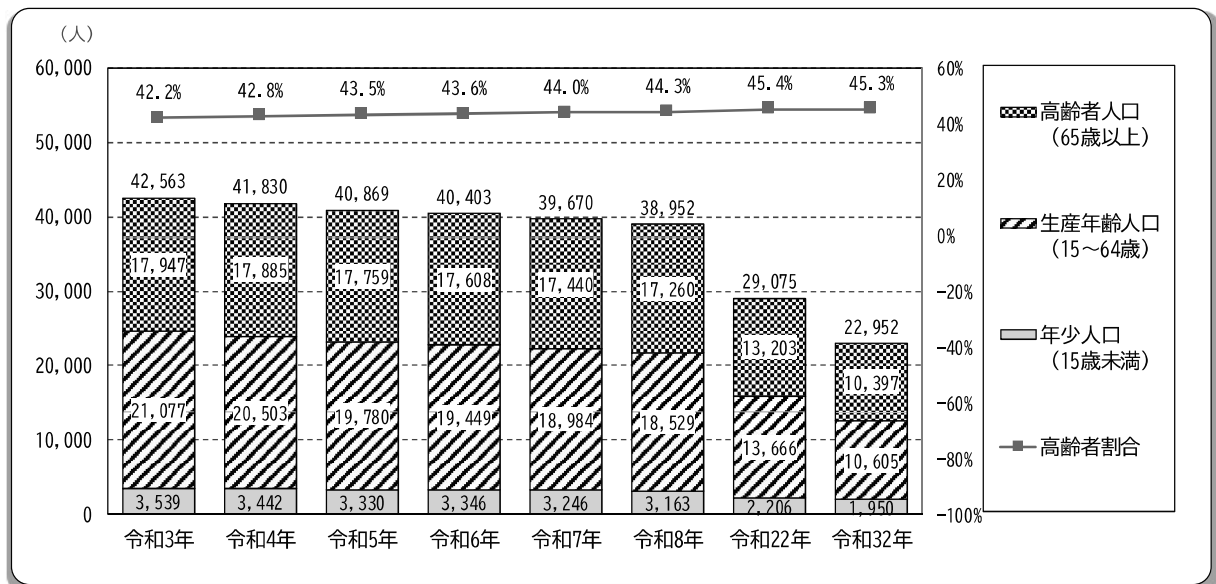
盛岡北部行政事務組合構成3市町の人口の推移は、減少傾向で推移し、令和3年は42,563人、令和5年は40,869人となっており、令和3年から令和5年の間で1,694人減少しています。

また、推計によると、この減少傾向は続くことが予想され、計画期間最終年の令和8年には38,952人、団塊ジュニア世代が高齢者となる令和22年には29,075人となり、令和3年から令和22年の間で13,488人減少することが見込まれています。

年齢3区分別人口推移をみると、年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15～64歳）、高齢者人口（65歳以上）全ての区分において減少傾向で推移しますが、高齢化率は増加傾向で推移すると見込まれます。

年齢3区分別人口割合をみると、総人口に対する65歳以上の割合は増加傾向で推移し、年少人口割合、生産年齢人口割合は減少傾向にあることから、少子高齢化の進行が見込まれます。

図表2-2-1 年齢3区分別人口推移及び人口推計



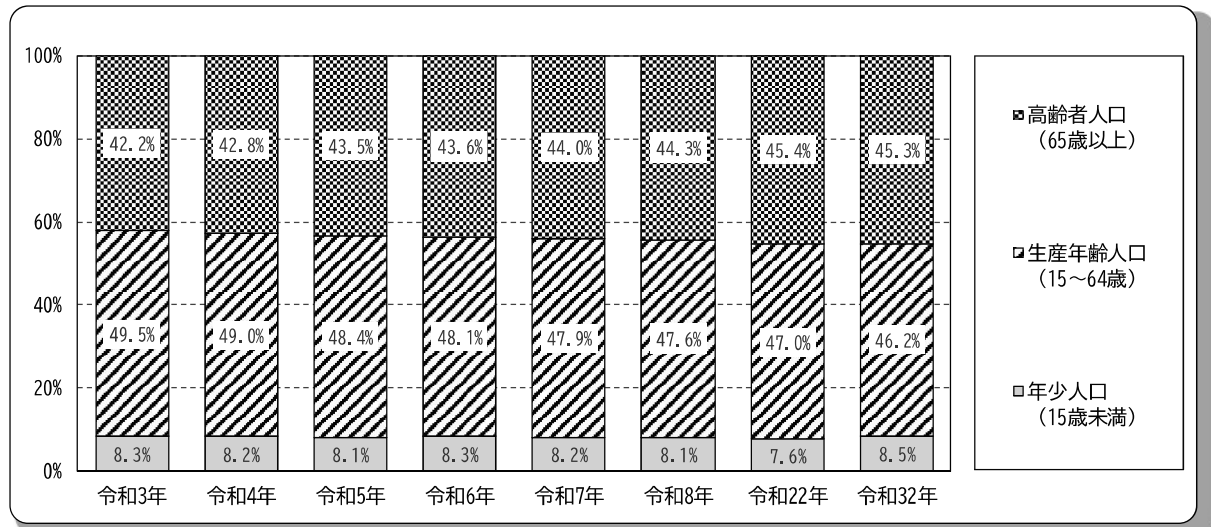
※令和3年～令和5は住民基本台帳人口(各年10月現在)、令和6年以降は推計値

■人口推計について

人口推計は住民基本台帳から、コーホート変化率法により推計

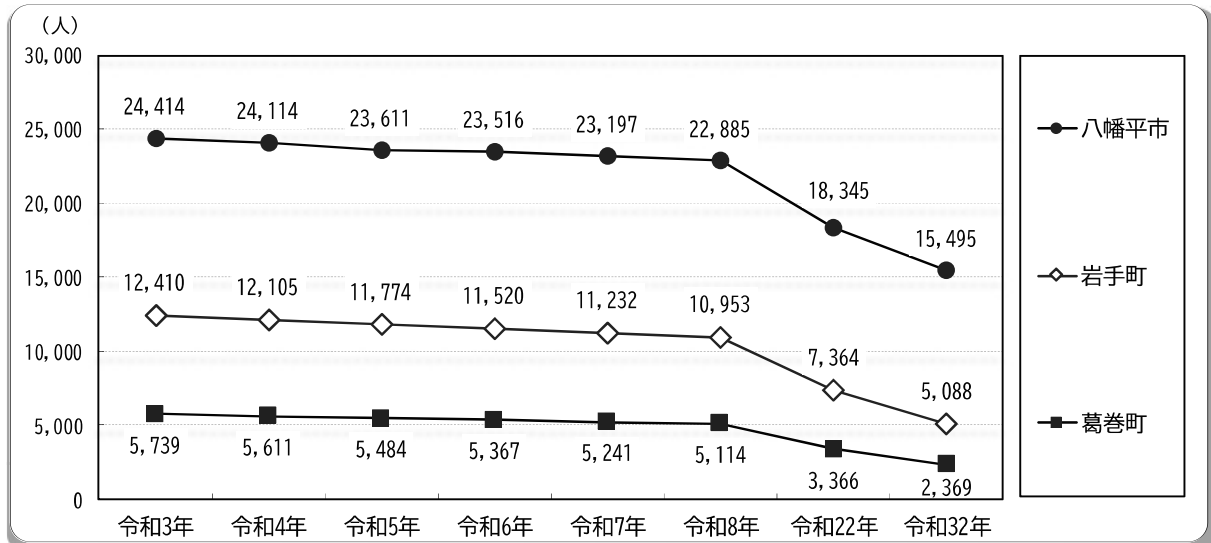
※コーホートとは、同年(または同期間)に出生した集団のことを言い、コーホート変化率法とは、その集団ごとの過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法

図表2-2-2 年齢3区分別人口推移及び人口推計の構成割合



※令和3年～令和5年は住民基本台帳人口(各年10月現在)、令和6年以降は推計値

図表2-2-3 地域別人口推移及び人口推計

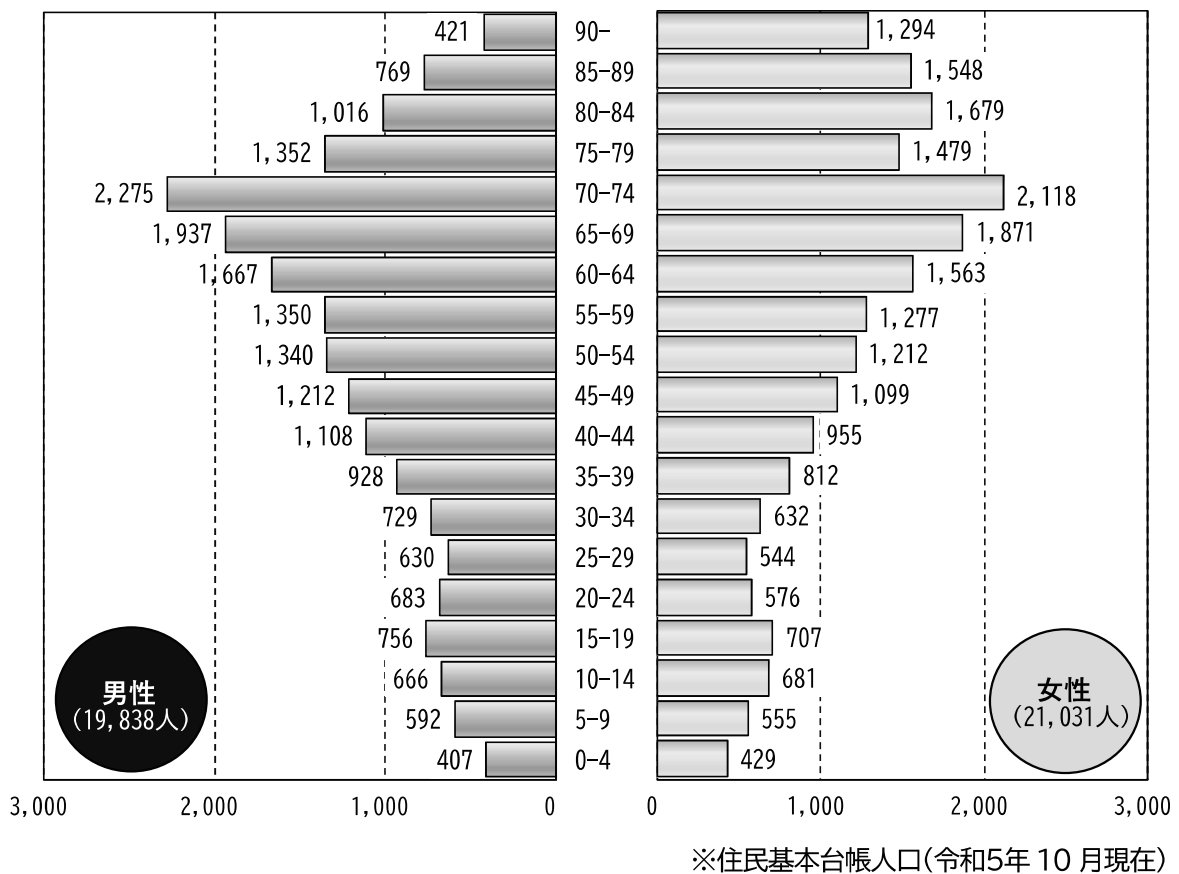


※令和3年～令和5年は住民基本台帳人口(各年10月現在)、令和6年以降は推計値

(2) 年齢階層別人口構成

盛岡北部行政事務組合構成3市町の令和5年10月現在における住民基本台帳の人口構成を5歳階層別にみると、男性、女性ともに「70～74歳」の構成が最も多く、今後、後期高齢者数の増加が見込まれるものの、「60～64歳」以下の人口は少ないことから、徐々に高齢者数は減少していくものと予測されます。

図表2-2-4 年齢階層別人口構成



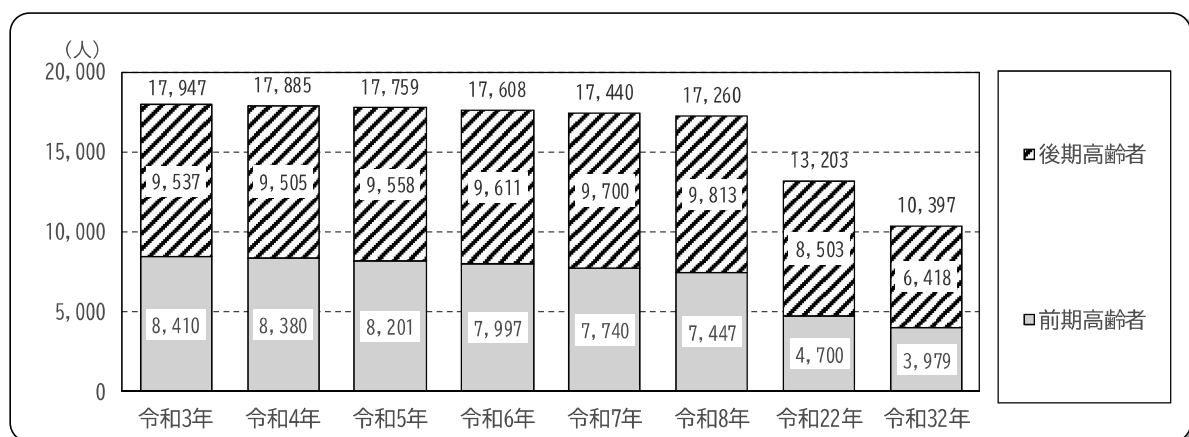
3 高齢者等の状況

(1) 高齢者人口の推移と推計

高齢者数は、減少傾向で推移し、令和3年は17,947人、令和5年は17,759人となり、推計によると計画期間最終年の令和8年には17,260人と、令和3年から令和8年の間で687人減少すると見込まれます。

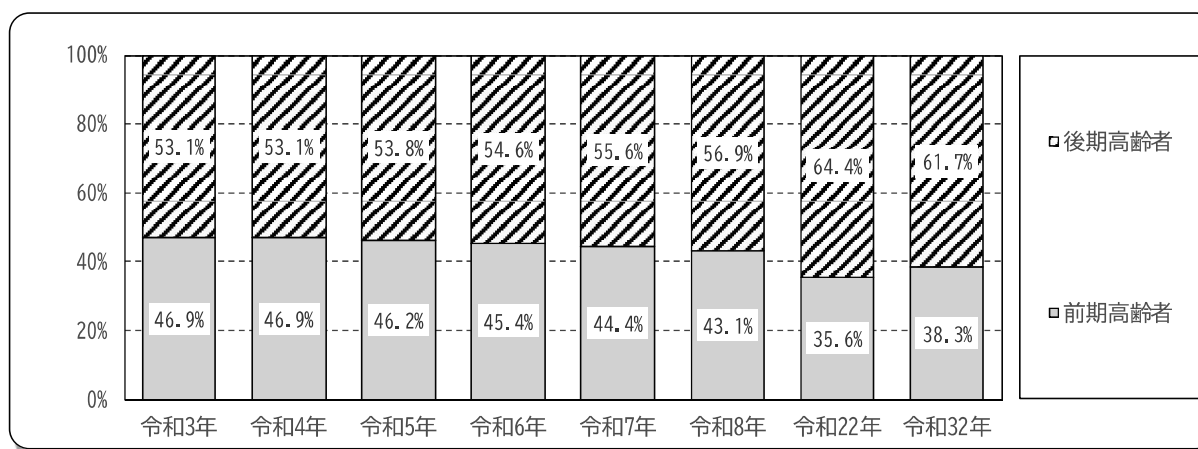
65歳以上の高齢者を前期高齢者（65～74歳）と後期高齢者（75歳以上）に分けて、その比率をみると、常に後期高齢者割合が前期高齢者割合より多く推移すると見込まれます。

図表2-3-1 前期高齢者、後期高齢者の人口推計



※令和3年～令和5年は住民基本台帳人口(各年10月現在)、令和6年以降は推計値

図表2-3-2 前期高齢者、後期高齢者の人口推計の構成比



※令和3年～令和5年は住民基本台帳人口(各年10月現在)、令和6年以降は推計値

(2) 高齢者世帯の状況

盛岡北部行政事務組合全体で、高齢者がいる世帯の状況を見ると、高齢者のいる世帯は増加しており、令和2年では10,906世帯となっています。特に高齢者単身世帯の増加が顕著で、平成22年に1,844世帯であったものが、令和2年では2,644世帯となり、800世帯増加しています。

図表2-3-3 高齢者がいる世帯の状況

	世帯数 (a)	aのうち65歳以上の高齢者のいる世帯 (b)	bのうち 高齢者単身世帯 (c)	bのうち 高齢者夫婦世帯 (d)	高齢者がいる世帯の割合 (b/a)
盛岡北部行政事務組合	17,334 世帯	10,639 世帯	1,844 世帯	2,220 世帯	61.4%
八幡平市	9,647 世帯	5,788 世帯	955 世帯	1,169 世帯	60.0%
葛巻町	2,657 世帯	1,795 世帯	387 世帯	418 世帯	67.6%
岩手町	5,030 世帯	3,056 世帯	502 世帯	633 世帯	60.8%

※国勢調査(平成22年)



	世帯数 (a)	aのうち65歳以上の高齢者のいる世帯 (b)	bのうち 高齢者単身世帯 (c)	bのうち 高齢者夫婦世帯 (d)	高齢者がいる世帯の割合 (b/a)
盛岡北部行政事務組合	16,774 世帯	10,803 世帯	2,204 世帯	2,299 世帯	64.4%
八幡平市	9,406 世帯	5,944 世帯	1,143 世帯	1,271 世帯	63.2%
葛巻町	2,453 世帯	1,731 世帯	434 世帯	407 世帯	70.6%
岩手町	4,915 世帯	3,128 世帯	627 世帯	621 世帯	63.6%

※国勢調査(平成27年)



	世帯数 (a)	aのうち65歳以上の高齢者のいる世帯 (b)	bのうち 高齢者単身世帯 (c)	bのうち 高齢者夫婦世帯 (d)	高齢者がいる世帯の割合 (b/a)
盛岡北部行政事務組合	16,221 世帯	10,906 世帯	2,644 世帯	2,396 世帯	67.2%
八幡平市	9,118 世帯	6,069 世帯	1,402 世帯	1,327 世帯	66.6%
葛巻町	2,342 世帯	1,707 世帯	503 世帯	423 世帯	72.9%
岩手町	4,761 世帯	3,130 世帯	739 世帯	646 世帯	65.7%

※国勢調査(令和2年)

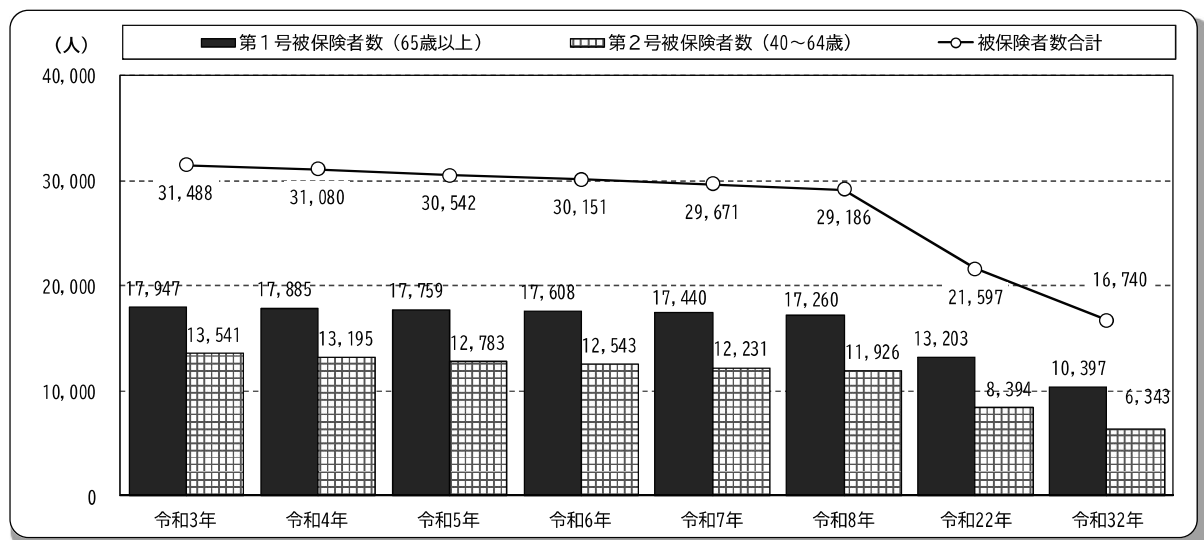
4 介護保険事業の状況

(1) 被保険者数の推移と推計

被保険者数は、年々減少傾向で推移し、令和5年は30,542人となり、推計によると、この減少傾向は今後も続くことが予測され、計画最終年の令和8年には29,186人となり、令和3年から令和8年の間で2,302人減少することが見込まれています。

被保険者数を区別にみても同様に、第1号被保険者数、第2号被保険者数ともに減少傾向にあります。

図表2-4-1 第1号被保険者数と第2号被保険者数の推計

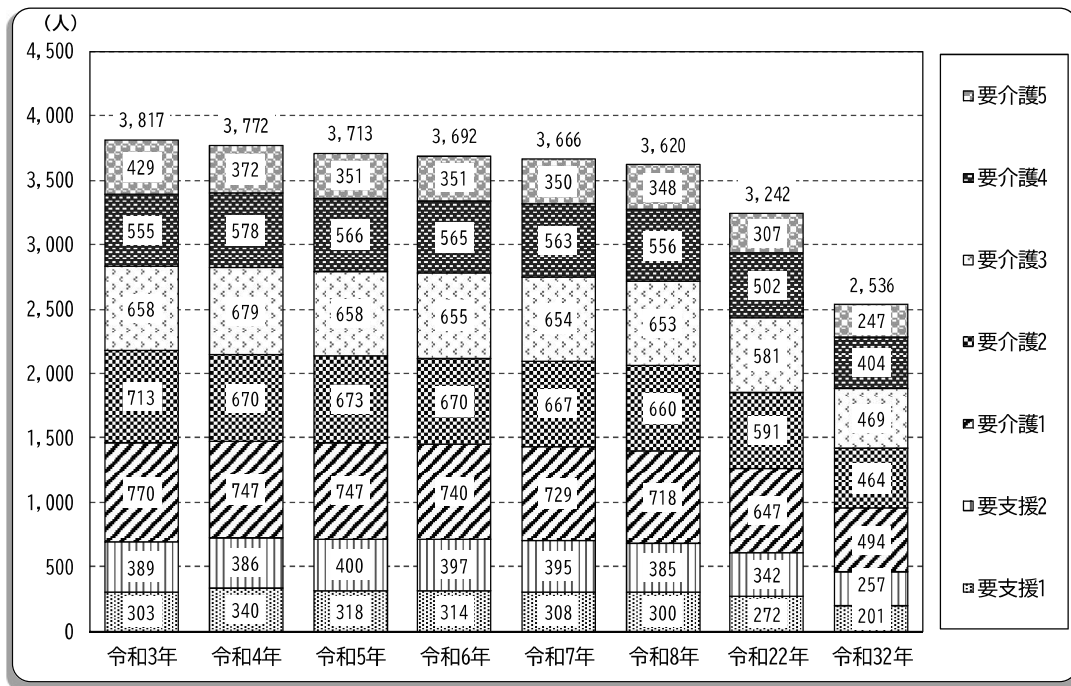


※令和3年～令和5年は住民基本台帳人口(各年10月現在)、令和6年以降は推計値

(2) 認定者の推移と推計

令和6年以降の人口推計と性別、年齢階級別認定者数の実績を基に算出した令和6年以降の要介護等認定者数は、減少傾向で推移し、令和8年の要介護等認定者数は3,620人となります。

図表2-4-2 要介護度別認定者数の推移及び推計①



※令和3～令和5年は実績、令和6年以降は推計値(見える化システム)

図表2-4-3 要介護度別認定者数の推移及び推計②

(単位:人)

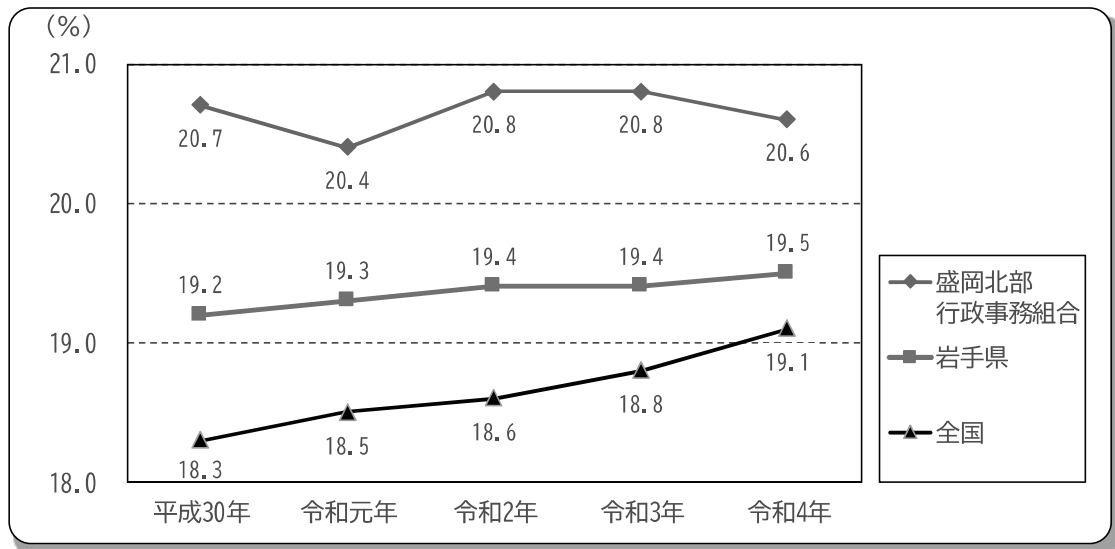
	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和22年	令和32年
総数	3,817	3,772	3,713	3,692	3,666	3,620	3,242	2,536
要支援1	303	340	318	314	308	300	272	201
要支援2	389	386	400	397	395	385	342	257
要介護1	770	747	747	740	729	718	647	494
要介護2	713	670	673	670	667	660	591	464
要介護3	658	679	658	655	654	653	581	469
要介護4	555	578	566	565	563	556	502	404
要介護5	429	372	351	351	350	348	307	247
うち第1号被保険者数	3,740	3,704	3,648	3,627	3,602	3,558	3,199	2,502
要支援1	299	334	309	305	299	291	266	196
要支援2	383	379	391	388	386	377	336	252
要介護1	750	726	731	724	714	703	637	486
要介護2	699	660	660	657	654	648	582	457
要介護3	643	667	649	646	645	644	575	465
要介護4	544	571	560	559	557	550	498	401
要介護5	422	367	348	348	347	345	305	245

※令和3～令和5年は実績、令和6年以降は推計値(見える化システム)

(3) 認定率の推移

認定率は、横ばい傾向で推移し、令和4年では20.6%となっています。また、国、県と比較すると、国、県より高い水準で推移しています。

図表2-4-4 認定率の推移

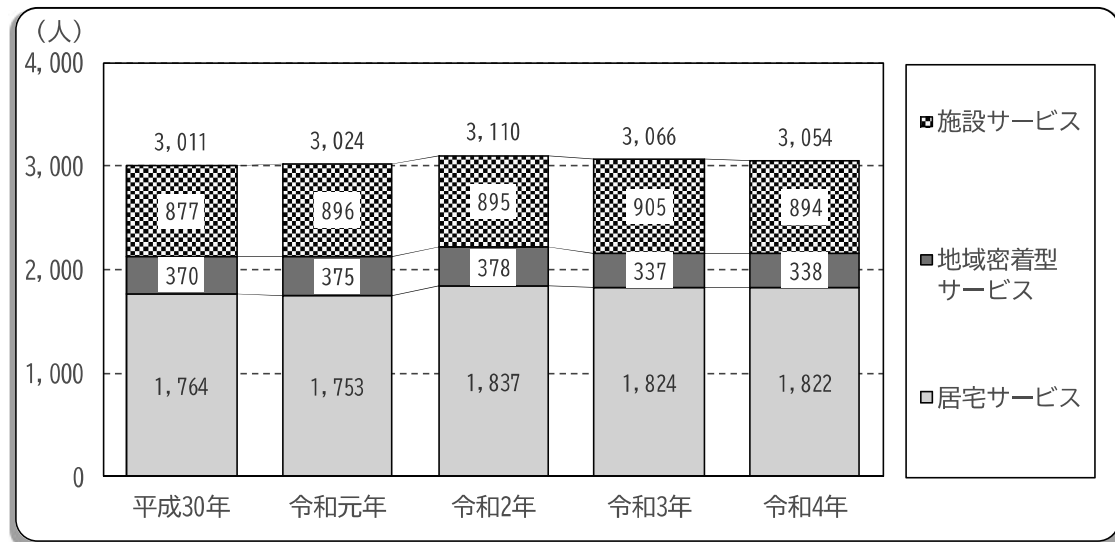


※見える化システム(各年9月現在)

(4) 受給者数の推移

介護保険サービスの受給者数をみると、横ばい傾向で推移し、令和4年では3,054人となっています。

図表2-4-5 受給者数の推移

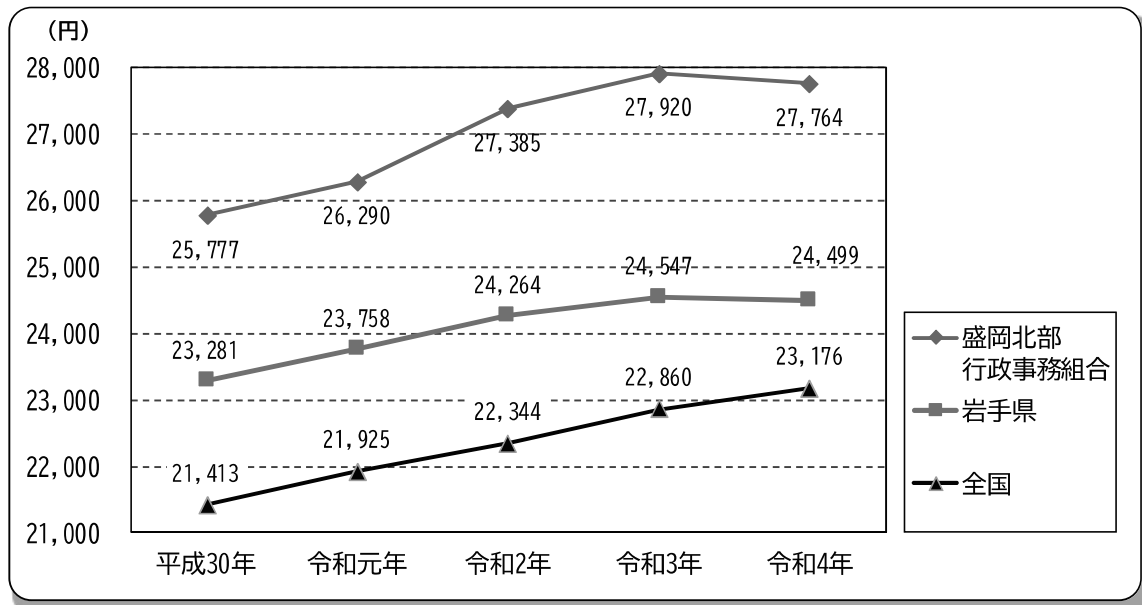


※見える化システム(各年9月現在)

(5) 第1号被保険者1人あたりの給付月額の推移

第1号被保険者1人あたりの給付月額は、増加傾向で推移し、令和4年では27,764円となっており、国、県と比較しても高い水準で推移しています。

図表2-4-6 第1号被保険者1人あたりの給付月額推移



※見える化システム(各年9月現在)

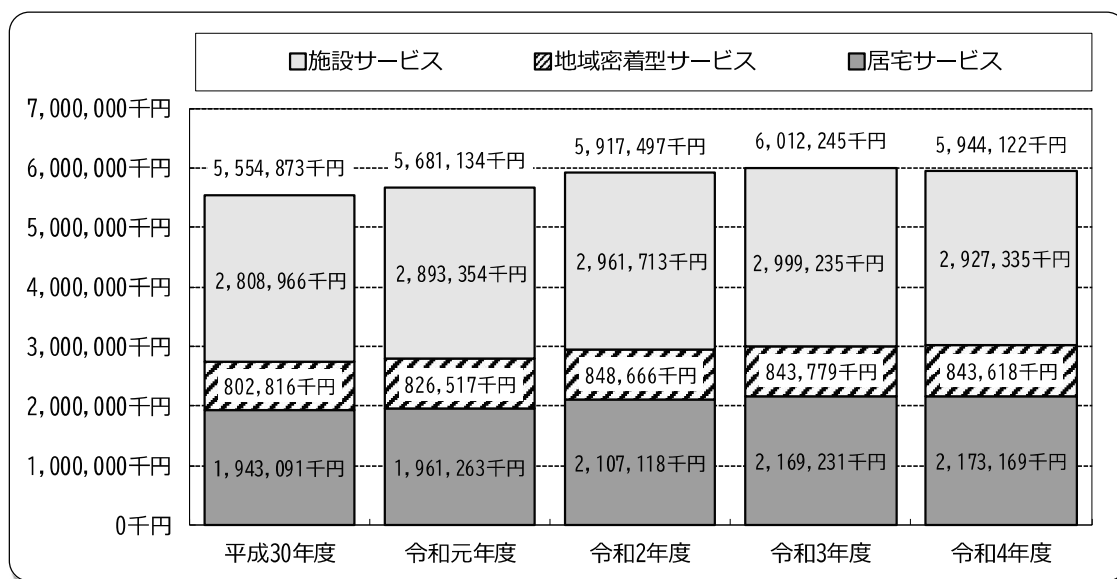
(6) 給付費の推移

給付費は増加傾向で推移していましたが、令和3年度から令和4年度にかけて減少し、令和4年度では約59億4千万円となっています。

サービス体系別に給付費をみると、施設サービス、地域密着型サービスは減少し、居宅サービスが増加しています。

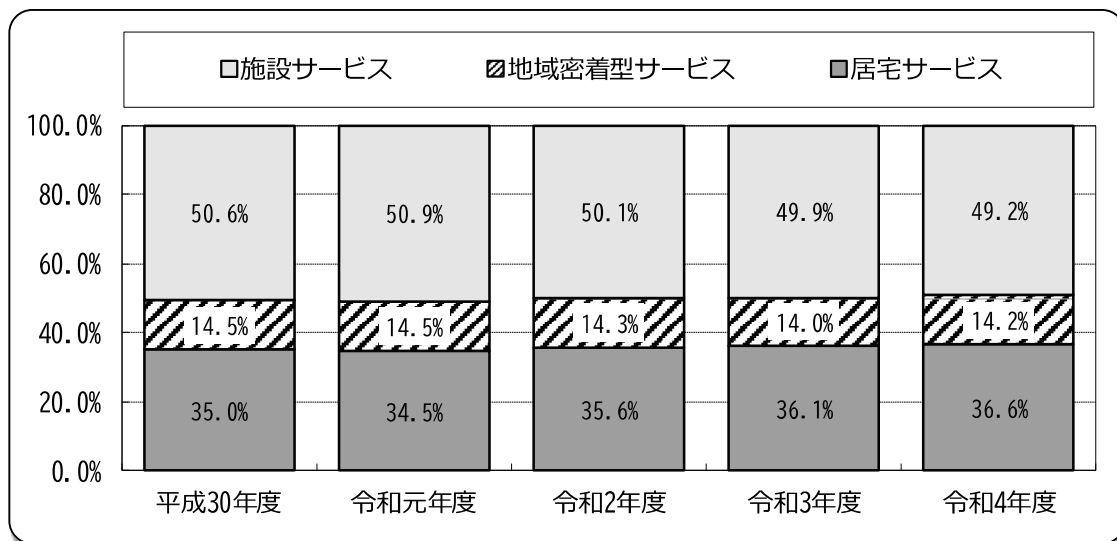
構成比でみると、どのサービスも横ばい傾向で推移し、施設サービス 50%程度、地域密着型サービス 15%程度、居宅サービス 35%程度となっています。

図表2-4-7 給付費の推移



※介護保険事業状況報告 年報

図表2-4-8 給付費割合の推移



※介護保険事業状況報告 年報

5 アンケート調査結果

令和4年度に、住民を対象として3種類（①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、②在宅介護実態調査、③施設サービス利用者調査）、事業所を対象として3種類（④在宅生活改善調査、⑤居所変更実態調査、⑥介護人材実態調査）の計6種類のアンケート調査を実施した調査結果を抜粋して掲載します。

(1) アンケート調査の概要

①調査の種類及び配布回収の結果

		配布数	有効回答数 【率】
①介護予防・ 日常生活圏域ニーズ調査	要介護認定者を含まない 65歳以上の高齢者	3,000件	1,561件 【52.0%】
②在宅介護実態調査	要支援・要介護認定者	1,500件	701件 【46.7%】
③施設サービス利用者調査	施設サービス利用者	500件	267件 【53.4%】
④在宅生活改善調査	居宅介護支援事業所、小規模 多機能型居宅介護、看護小規 模多機能型居宅介護サービス 提供事業者、ケアマネジャー	21件	14件 【66.7%】
⑤居所変更実態調査	施設サービス（施設・居住 系）提供事業者	35件	15件 【42.9%】
⑥介護人材実態調査	居宅サービス（通所系・短期 系・訪問系）、施設サービス （施設・居住系）提供事業者	95件	51件 【53.7%】

②調査方法

郵送による配布・回収（住民対象） 電子メールによる配布・回収（事業所対象）

③調査実施時期

令和4年11月～12月

④図表の表記について

- ・2つ以上の回答を求めている設問である複数回答のグラフは割合を合計すると100%を超える場合があります。
- ・端数処理の関係で回答の割合を合計して、100%にならない場合があります。

(2)介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

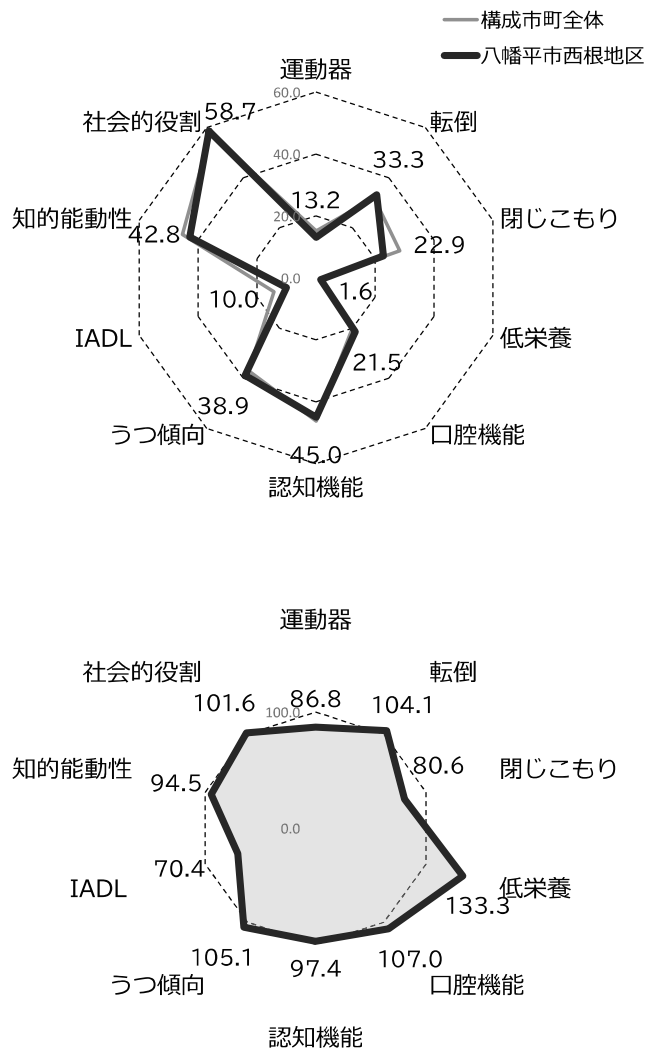
①八幡平市西根地区

八幡平市西根地区のリスク者の状況は、「転倒」、「低栄養」、「口腔機能」、「うつ傾向」、「社会的役割」の10項目中5項目について構成市町全体平均を上回っています。特に「低栄養」については、構成市町全体平均の約1.33倍となっています。

高齢者が低栄養に陥るきっかけは様々ですが、1人暮らしや閉じこもり、転倒や運動器の機能低下、口腔機能の低下、うつ傾向なども低栄養につながります。

八幡平市西根地区は、比較的1人暮らしが多く、このような様々な要因から食事の準備が難しくなっている高齢者がいる事も考えられます。

■リスク判定構成市町全体との比較



※構成市町全体を100.0とし、該当圏域におけるリスク者の割合を指数化

※IADL：買い物・電話・外出などADLよりも高い自立した日常生活をおくる能力（高いほど自立に近い）

ADL：独立して生活するために行う基本的で毎日繰り返される日常生活動作

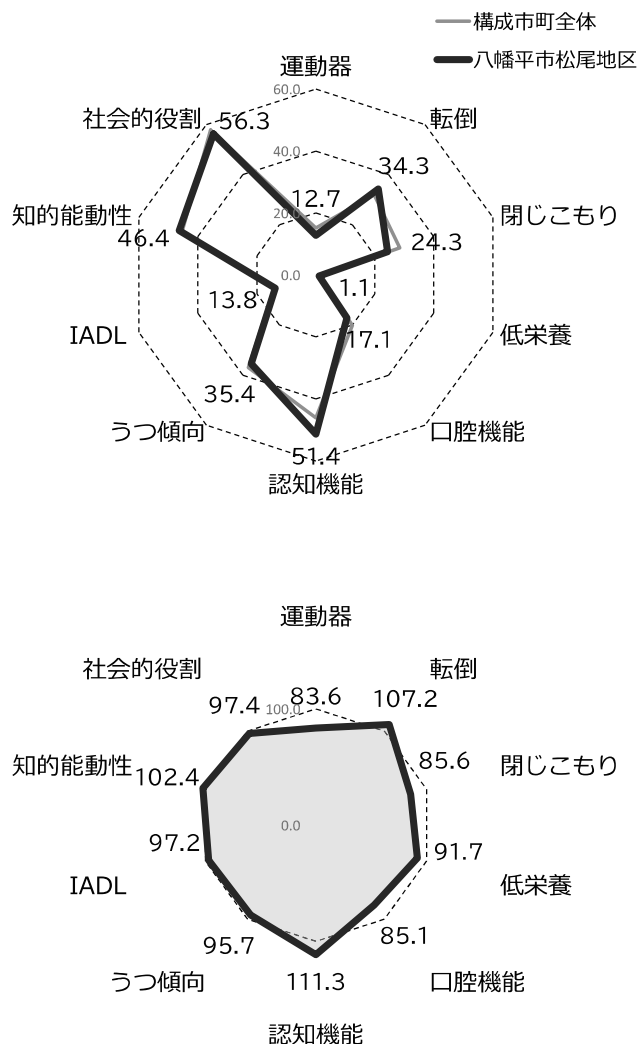
②八幡平市松尾地区

八幡平市松尾地区のリスク者の状況は、「転倒」、「認知機能」、「知的能動性」の10項目中3項目について構成市町全体平均を上回っています。特に「認知機能」については構成市町全体平均の約1.11倍となっています。

認知症とは、脳の病気や障害など様々な原因により、認知機能が低下し、日常生活全般に支障が出てくる状態をいいます。認知症を引き起こす原因疾患は多数存在しますが、認知症が進行する最大の原因は加齢です。

八幡平市松尾地区は、後期高齢者の割合が多く、特に85歳以上の高齢者の割合が多いことから、「認知機能」のリスク者が比較的多くなっていることが考えられます。

■リスク判定構成市町全体との比較



※構成市町全体を 100.0 とし、該当圏域におけるリスク者の割合を指数化

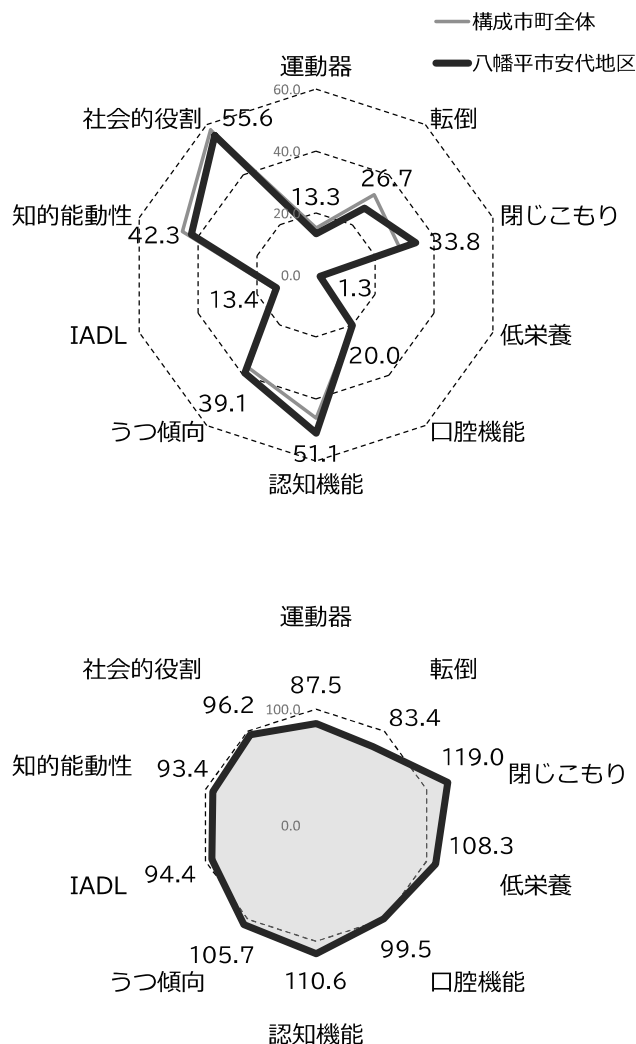
③八幡平市安代地区

八幡平市安代地区のリスク者の状況は、「閉じこもり」、「低栄養」、「認知機能」、「うつ傾向」の10項目中4項目について構成市町全体平均を上回っています。特に「閉じこもり」については構成市町全体平均の約1.19倍となっています。

「閉じこもり」は、筋力の低下や活動量の低下により低栄養を招く心配があり、その状態を放っておくと、寝たきりや認知症、うつ状態などへつながる危険性があります。

八幡平市安代地区は、「低栄養」、「認知機能」、「うつ傾向」のリスク者が比較的多く、「閉じこもり」との関連性も考えられます。

■リスク判定構成市町全体との比較



※構成市町全体を100.0とし、該当圏域におけるリスク者の割合を指数化

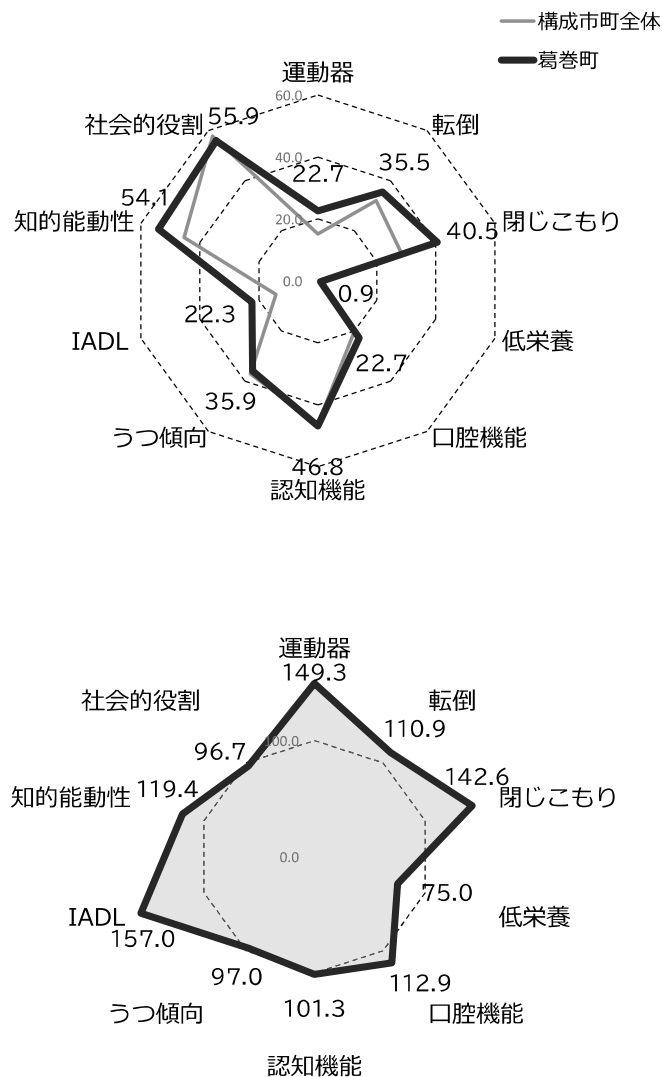
④葛巻町

葛巻町のリスク者の状況は、「運動器」、「転倒」、「閉じこもり」、「口腔機能」、「認知機能」、「IADL」、「知的能動性」の10項目中7項目について構成市町全体平均を上回っています。特に「運動器」については構成市町全体平均の約1.49倍、「閉じこもり」については約1.43倍、「IADL」については1.57倍となっています。

「閉じこもり」をもたらす要因には、大きく分けて3つ、身体的要因、心理的要因、社会・環境的要因があるとされており、これらが相互に関連することで「閉じこもり」の発生に繋がってくると考えられています。

葛巻町は、「運動器」、「転倒」のリスク者が比較的多いことから、身体機能の低下によって「閉じこもり」状態になっていることも考えられます。

■リスク判定構成市町全体との比較



※構成市町全体を 100.0 とし、該当圏域におけるリスク者の割合を指数化

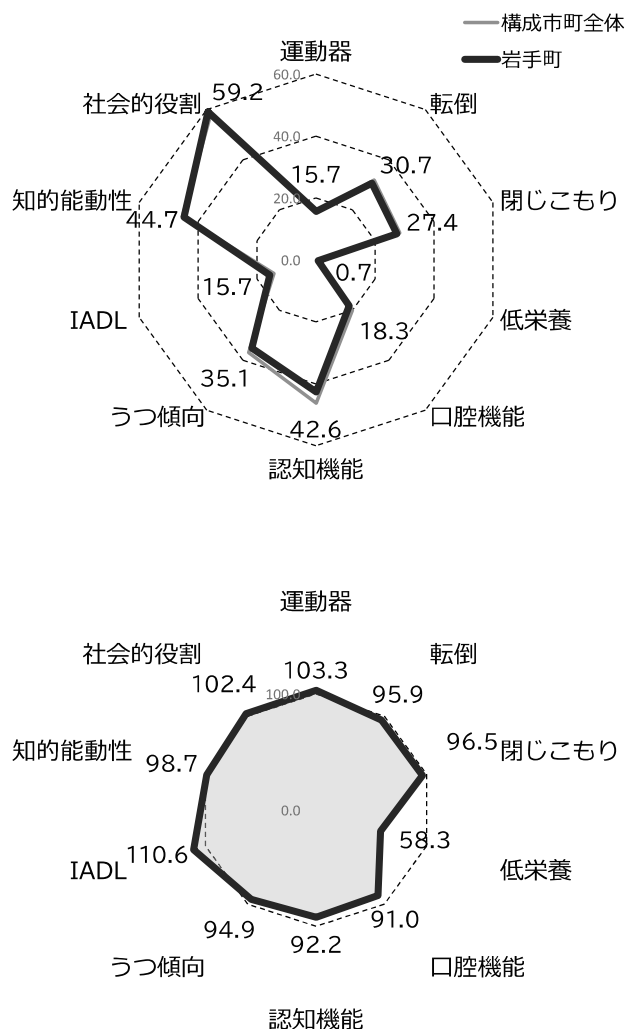
⑤岩手町

岩手町のリスク者の状況は、「運動器」、「IADL」、「社会的役割」の10項目中3項目について構成市町全体平均を上回っています。特に「IADL」については構成市町全体平均の約1.1倍となっています。

「IADL」が低下する主な原因は、病気や加齢の影響による身体機能・認知機能の低下です。

岩手町は、「運動器」、「社会的役割」のリスク者が比較的多く、身体の状態やIADL判定の「バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）」は外出に関する事でもあり、「社会的役割」との関連性も考えられます。

■リスク判定構成市町全体との比較



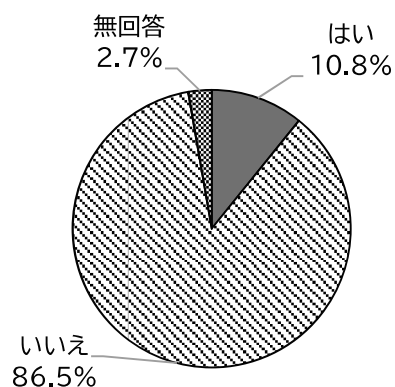
※構成市町全体を 100.0 とし、該当圏域におけるリスク者の割合を指数化

⑥認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかは、「はい」が10.8%、「いいえ」が86.5%となっています。

■認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか

【n=1,561】

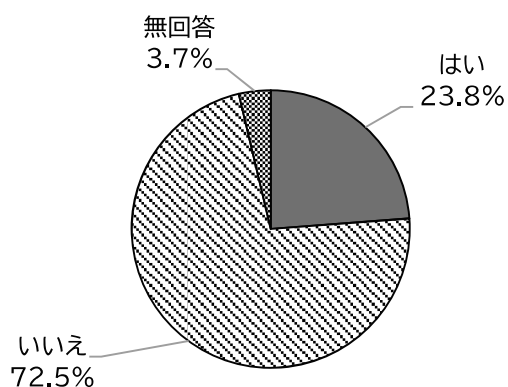


⑦認知症に関する相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「はい」が23.8%、「いいえ」が72.5%となっています。

■認知症に関する相談窓口の認知度

【n=1,561】



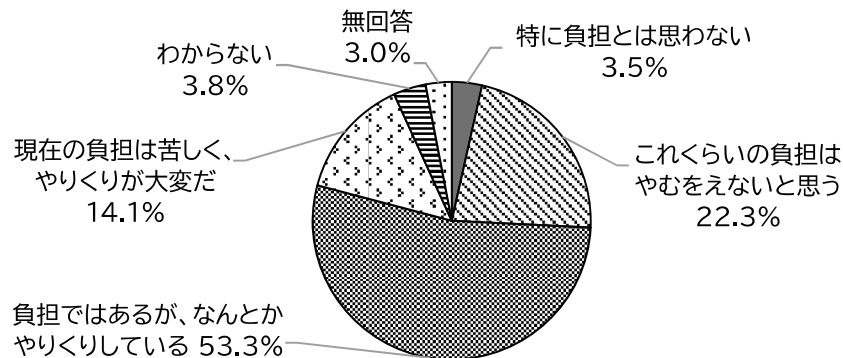
⑧支払っている介護保険料について

現在支払っている、介護保険料についての考えを尋ねると、53.3%が「負担ではあるが、なんとかやりくりしている」と回答しています。

また、14.1%が「現在の負担は苦しく、やりくりが大変だ」と回答しています。

■支払っている介護保険料について

【n=1,561】

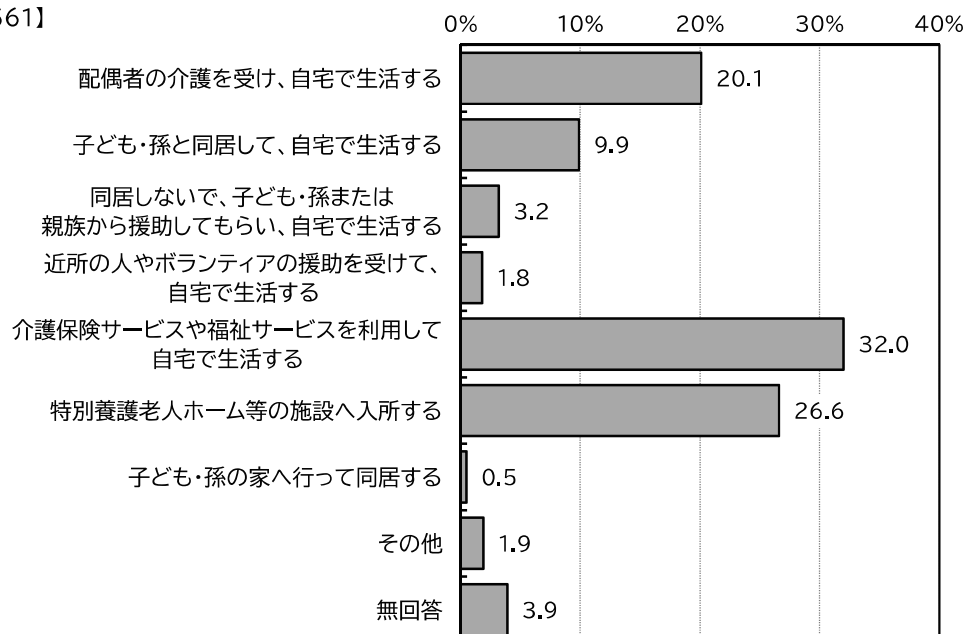


⑨理想とする介護について

将来の理想とする介護については、「介護保険サービスや福祉サービスを利用して自宅で生活する」が 32.0%と最も多く、次いで「特別養護老人ホーム等の施設へ入所する」(26.6%)、「配偶者の介護を受け、自宅で生活する」(20.1%)と続いています。

■理想とする介護について

【n=1,561】

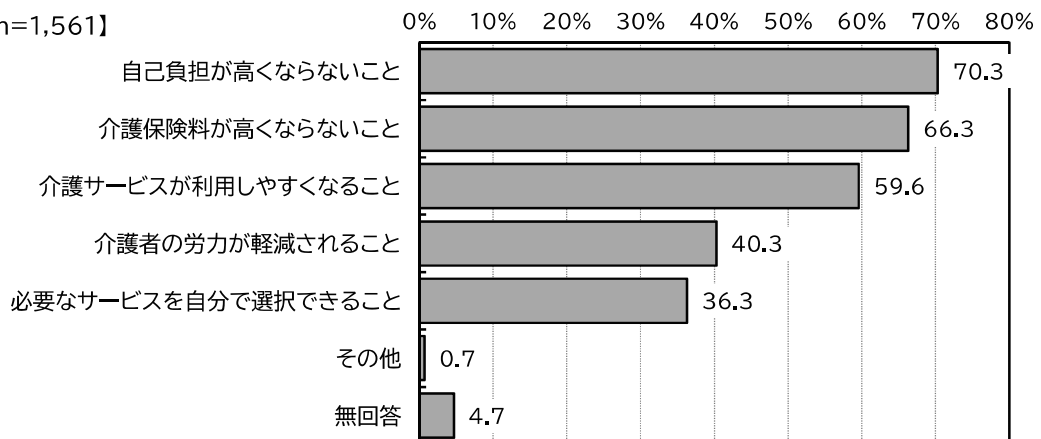


⑩介護保険制度に期待すること

介護保険制度に期待することを尋ねると、「自己負担が高くないこと」が70.3%と最も多く、次いで「介護保険料が高くないこと」、(66.3%)、「介護サービスが利用しやすくなること」(59.6%)と続いています。

■介護保険制度に期待すること

【n=1,561】



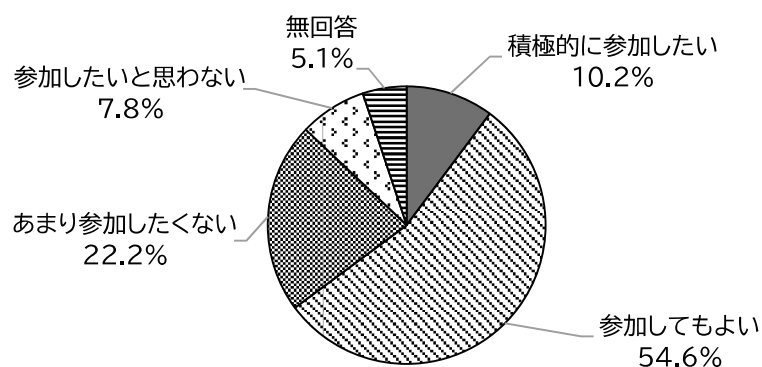
⑪介護予防事業への参加について

介護予防事業への参加を勧められた場合、どうするかについては、「参加してもよい」が54.6%と最も多く、「積極的に参加したい」(10.2%)と合わせると、64.8%が参加の意思を示しています。

また、「あまり参加したくない」(22.2%)と「参加したいと思わない」(7.8%)を合わせると、30.0%が参加したくないと回答しています。

■介護予防事業への参加について

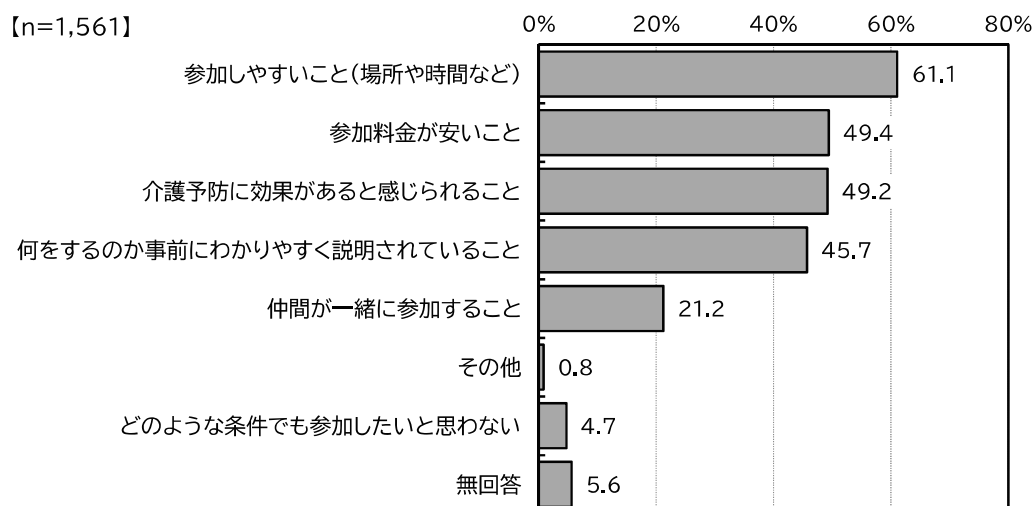
【n=1,561】



⑫介護予防事業を利用する際に、優先すること

介護予防事業を利用するとしたら、どんなことを優先させるかについては、「参加しやすいこと（場所や時間など）」が61.1%と最も多く、次いで「参加料金が安いこと」（49.4%）、「介護予防に効果があると感じられること」（49.2%）、「何をやるのか事前にわかりやすく説明されていること」（45.7%）と続いています。

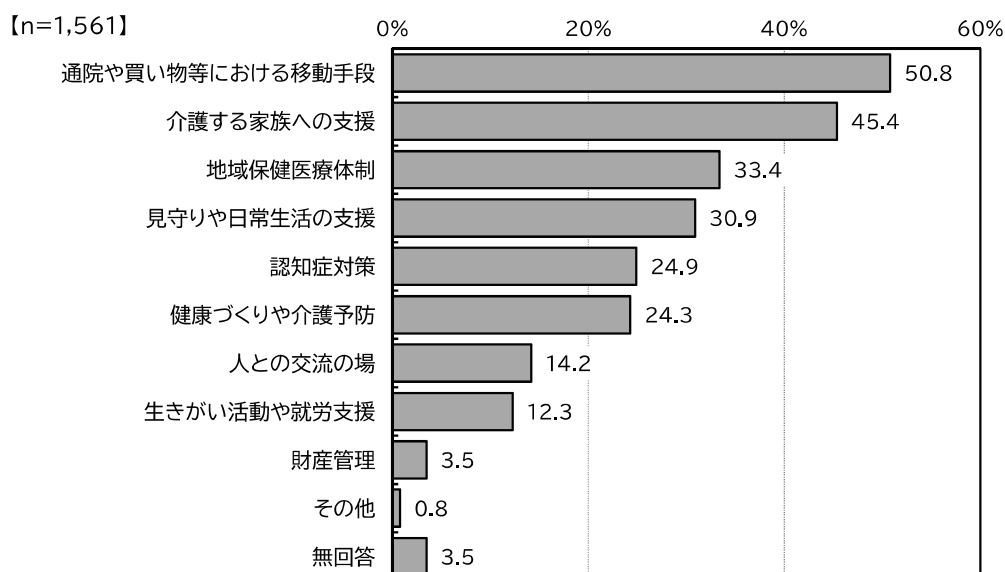
■介護予防事業を利用する際に、優先すること



⑬安心して暮らしていくために、充実してほしいこと

安心して暮らしていくために、充実してほしいことは、「通院や買い物等における移動手段」が50.8%と最も多く、次いで「介護する家族への支援」（45.4%）、「地域保健医療体制」（33.4%）、「見守りや日常生活の支援」（30.9%）と続いています。

■安心して暮らしていくために、充実してほしいこと

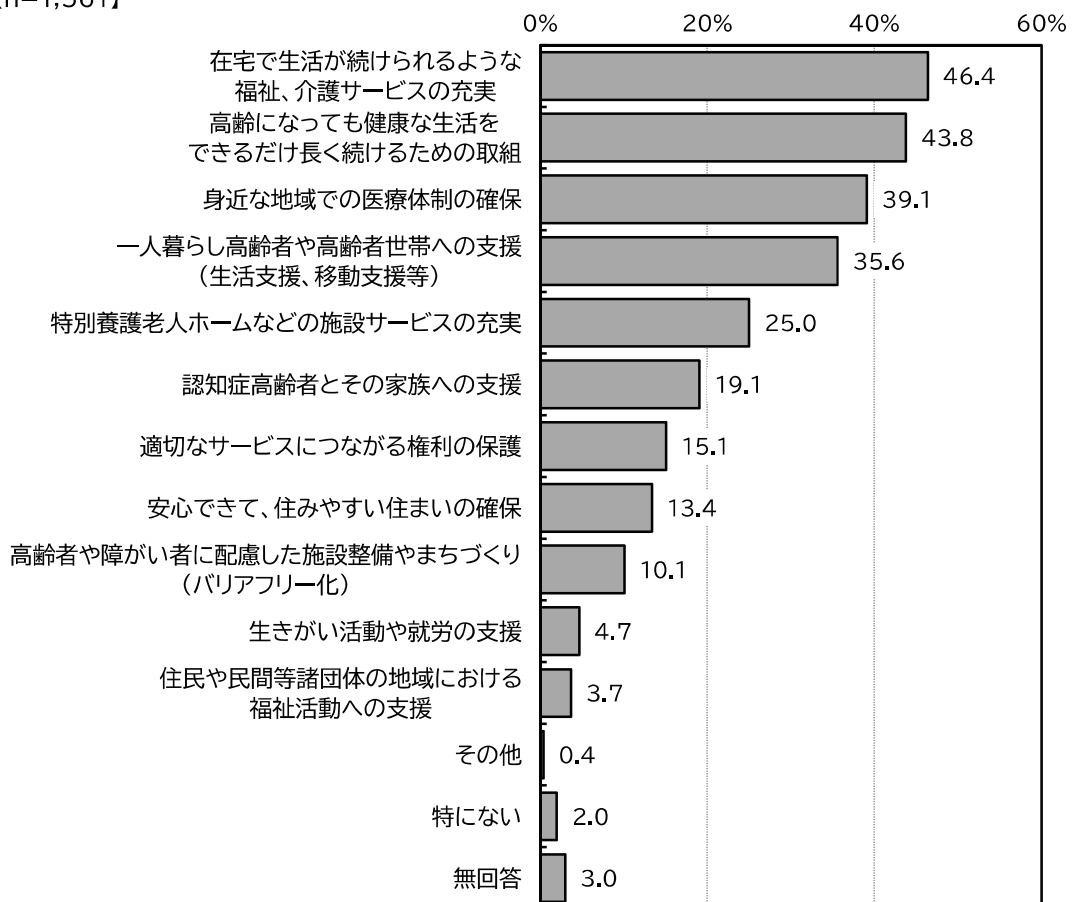


⑭高齢者保健福祉施策について

市町村が高齢者保健福祉施策を進める上で今後、力を入れていくべきと思うものについては、「在宅で生活が続けられるような福祉、介護サービスの充実」が46.4%と最も多く、次いで「高齢になっても健康な生活をできるだけ長く続けるための取組」（43.8%）、「身近な地域での医療体制の確保」（39.1%）、「一人暮らし高齢者や高齢者世帯への支援（生活支援、移動支援等）」（35.6%）と続いています。

■高齢者保健福祉施策について

【n=1,561】



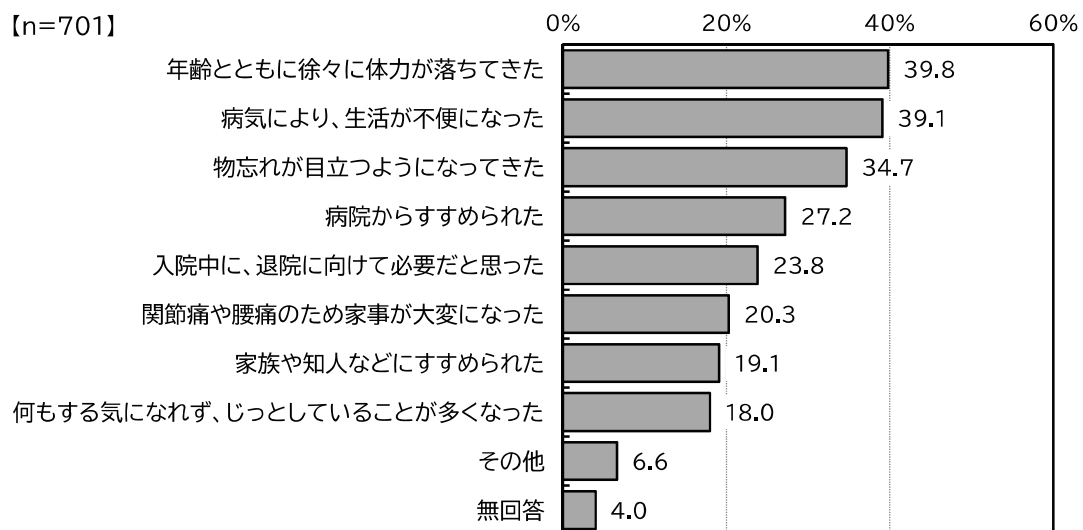
(3)在宅介護実態調査結果

①要介護(支援)認定を受けたきっかけ

要介護認定を受けたきっかけを尋ねると、「年齢とともに徐々に体力が落ちてきた」が39.8%と最も多く、次いで「病気により、生活が不便になった」(39.1%)、「物忘れが目立つようになってきた」(34.7%)と続いています。

■要介護(支援)認定を受けたきっかけ

【n=701】



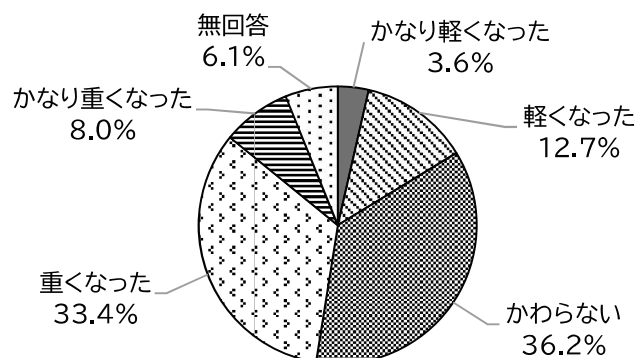
②要介護度の変化

最初に要介護認定を受けた時と現在の要介護度に変化はあるか尋ねると、「かなり軽くなった」(3.6%)、「軽くなった」(12.7%)を合わせると16.3%が軽くなったと回答しています。

また、「かなり重くなった」(8.0%)、「重くなった」(33.4%)を合わせると41.4%が重くなったと回答しています。

■要介護度の変化

【n=701】

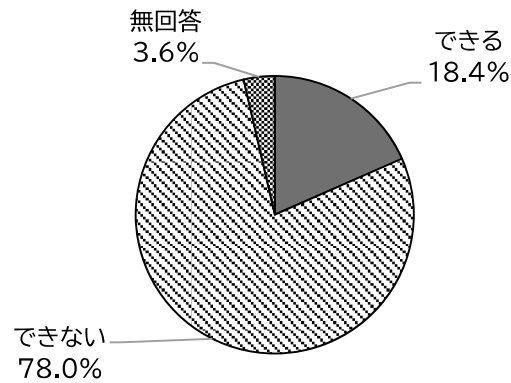


③災害時に、一人で避難できるか

災害時に一人で避難できるかは、78.0%が「できない」と回答しています。

■災害時に、一人で避難できるか

【n=701】

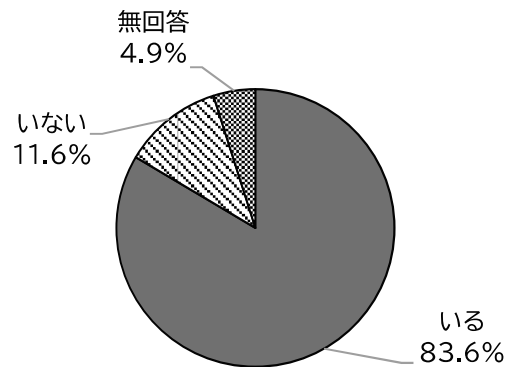


④災害時に助けてくれる人が近くにいるか

災害時に助けてくれる人が近くにいるかは、83.6%が「いる」と回答しているものの、「いない」という回答も11.6%ありました。

■災害時に助けてくれる人が近くにいるか

【n=701】

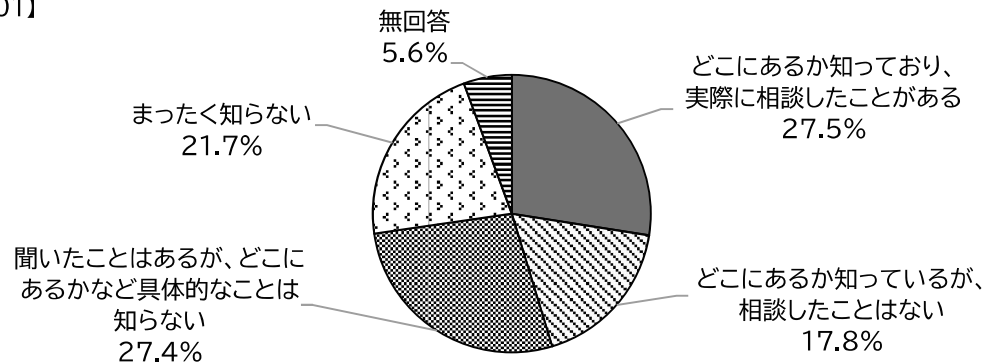


⑤地域包括支援センターについて

地域包括支援センターについて知っているか尋ねると、21.7%が「まったく知らない」、27.4%が「聞いたことはあるが、どこにあるかなど具体的なことは知らない」と回答しています。

■地域包括支援センターについて

【n=701】

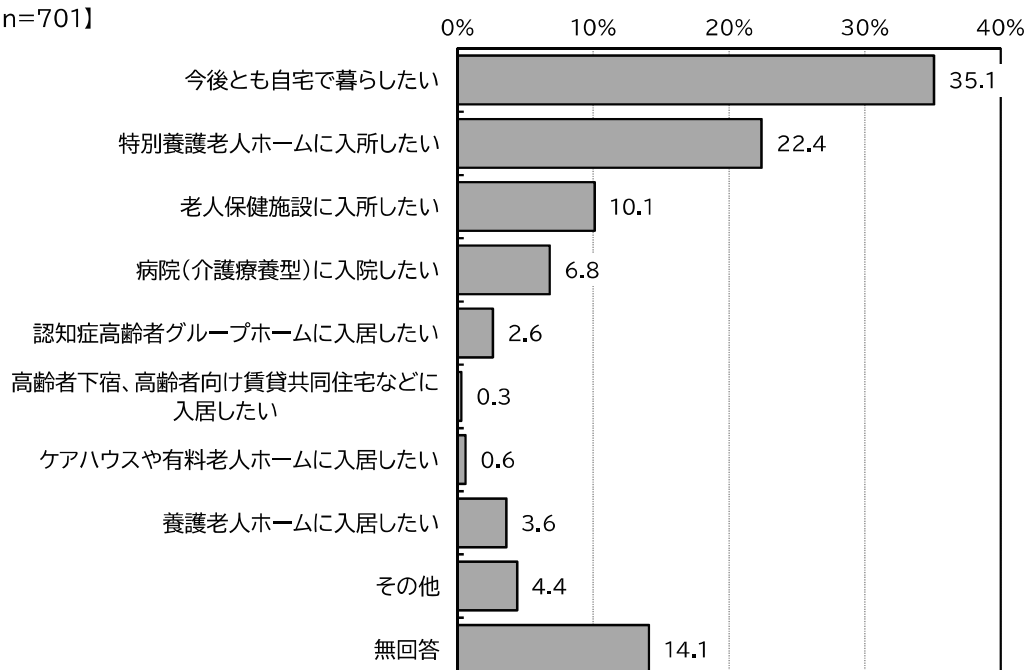


⑥身の回りのことが自分でできなくなったときに、どのような暮らしを望むか

身の回りのことが自分でできなくなったときに、どのような暮らしを考えているか尋ねると、「今後とも自宅で暮らしたい」が35.1%と最も多く、次いで「特別養護老人ホームに入所したい」（22.4%）と続いています。

■身の回りのことが自分でできなくなったときに、どのような暮らしを望むか

【n=701】

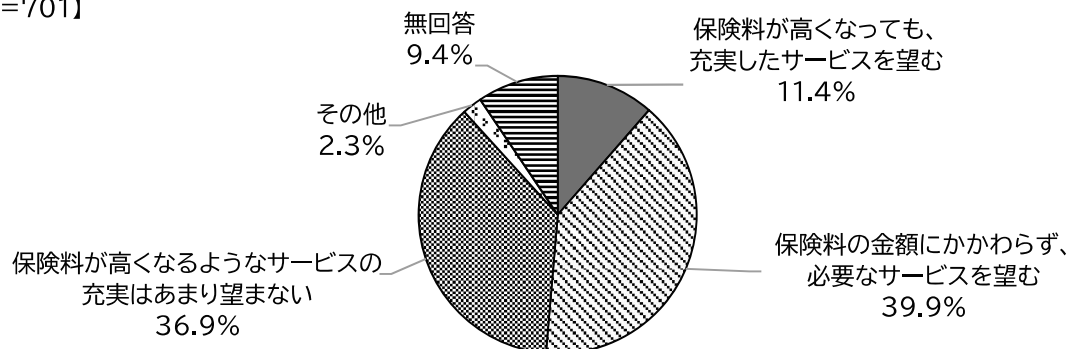


⑦介護保険制度の保険料について

介護保険制度の保険料については、「保険料の金額にかかわらず、必要なサービスを望む」が 39.9%と最も多く、次いで「保険料が高くなるようなサービスの充実はまだ望まない」(36.9%)、「保険料が高くなっても、充実したサービスを望む」(11.4%)となっています。

■介護保険制度の保険料について

【n=701】

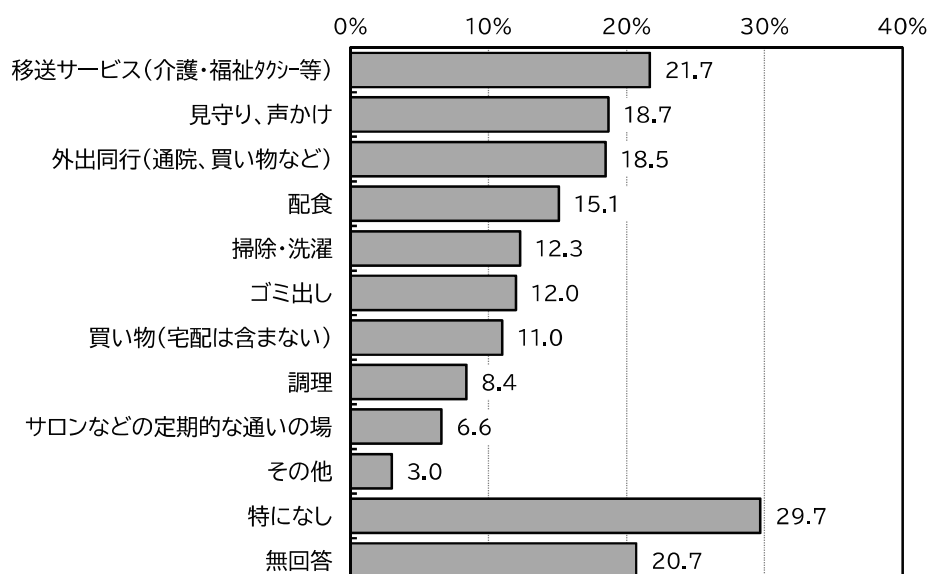


⑧在宅生活の継続に必要な支援・サービス

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）は、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 21.7%と最も多く、次いで「見守り、声かけ」(18.7%)、「外出同行（通院、買い物など）」(18.5%)と続いています。

■在宅生活の継続に必要な支援・サービス

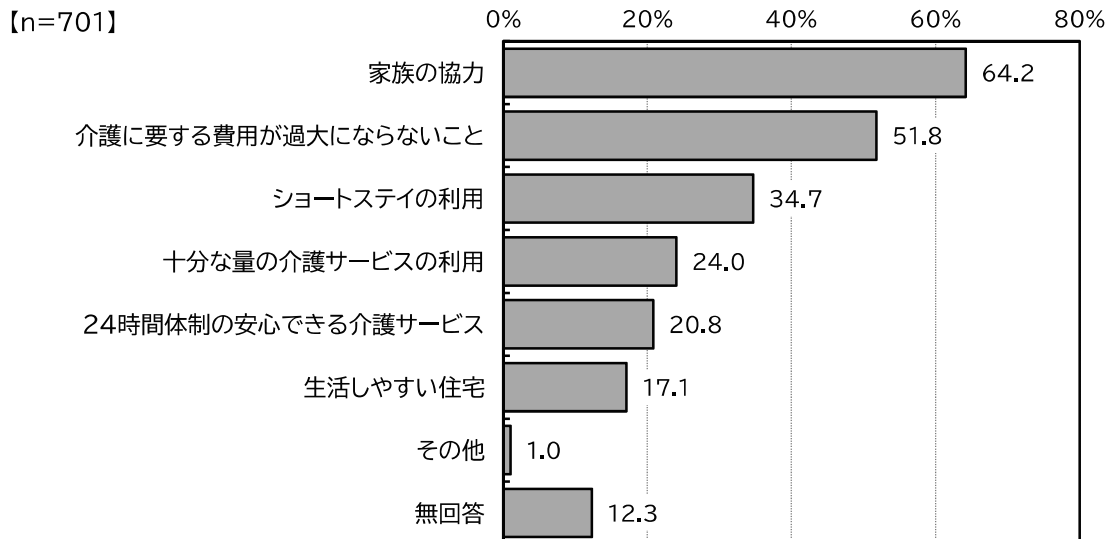
【n=701】



⑨在宅生活続けるために必要なこと

在宅生活続けるために必要だと思うことを尋ねると、「家族の協力」が64.2%と最も多く、次いで「介護に要する費用が過大にならないこと」(51.8%)、「ショートステイの利用」(34.7%)と続いています。

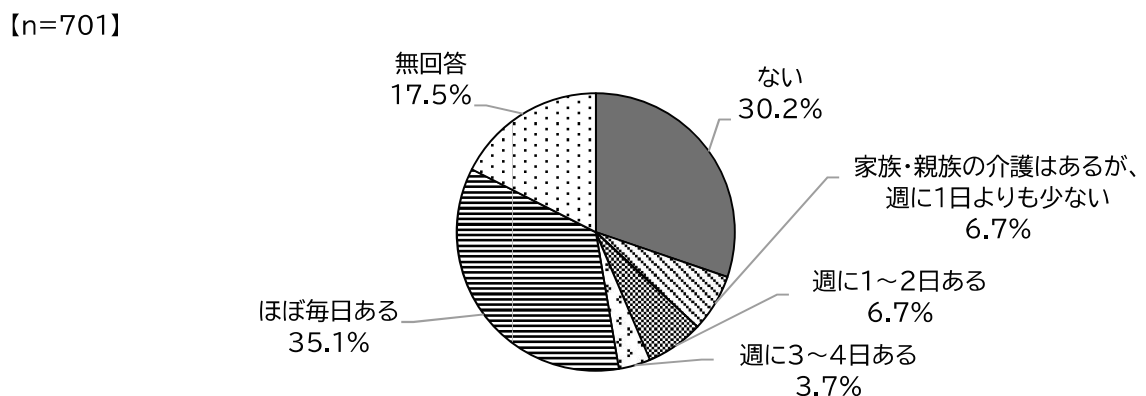
■在宅生活続けるために必要なこと



⑩家族・親族からの介護の状況

家族や親族からの介護の状況については、「ほぼ毎日ある」が35.1%と最も多く、次いで「家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない」、「週に1～2日ある」(ともに6.7%)、「週に3～4日ある」(3.7%)となっており、5割以上が家族や親族からの介護を受けています。

■家族・親族からの介護の状況

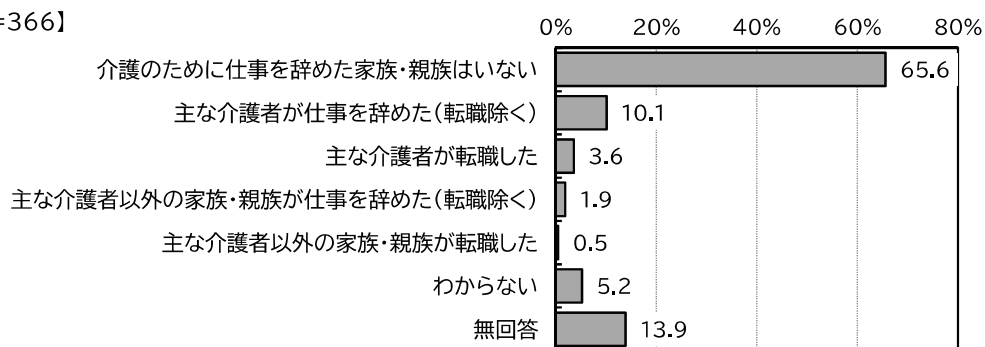


⑪介護を理由に仕事を辞めた家族・親族

家族や親族の中で、介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方がいるかは、65.6%が「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答しています。その他「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（10.1%）、「主な介護者が転職した」（3.6%）、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」（1.9%）、「主な介護者以外の家族・親族が転職した」（0.5%）となっており、介護を理由として離職や転職した家族や親族が16.1%います。

■介護を理由に仕事を辞めた家族・親族

【n=366】

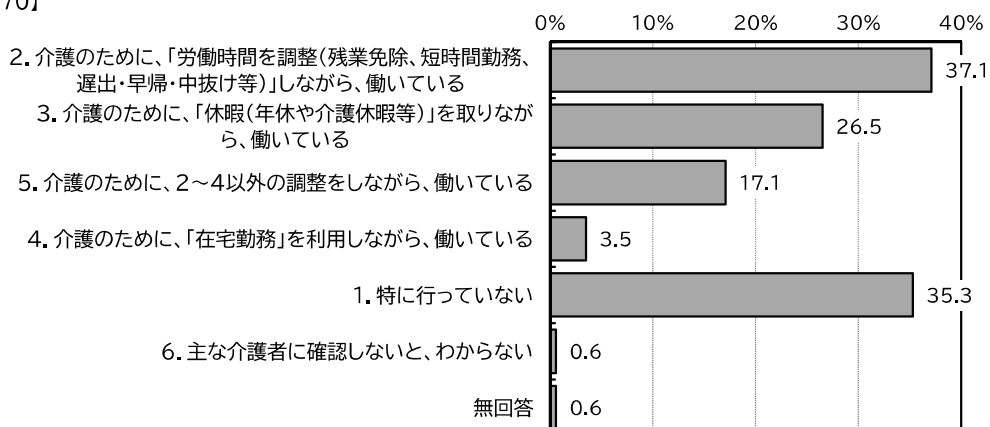


⑫働き方の調整について

何か働き方についての調整等をしたか尋ねると、「2. 介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が37.1%と最も多く、次いで「3. 介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」（26.5%）、「5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」（17.1%）と続いています。

■働き方の調整について

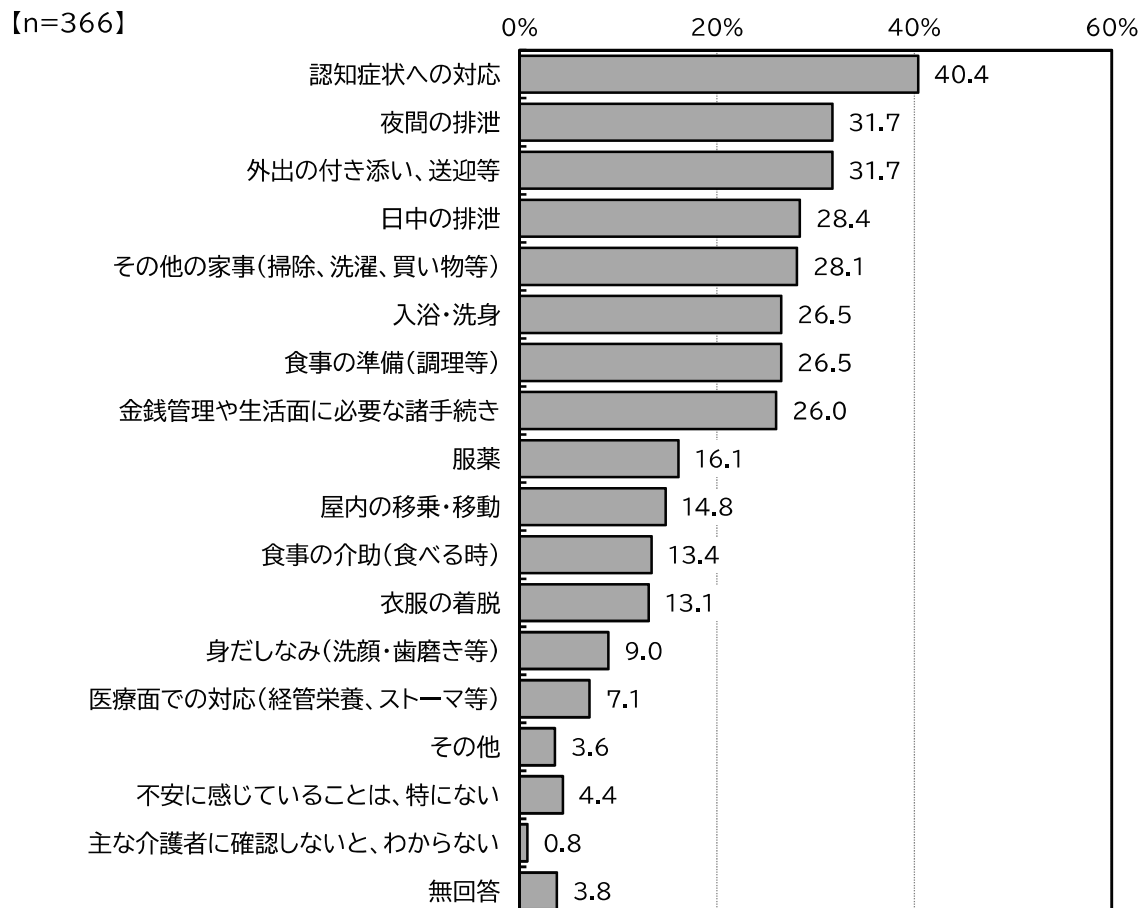
【n=170】



⑬主な介護者が不安に感じる介護等について

主な介護者が不安に感じる介護等は、「認知症状への対応」が 40.4%と最も多く、次いで「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」（ともに 31.7%）、「日中の排泄」（28.4%）、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（28.1%）と続いています。

■主な介護者が不安に感じる介護等について

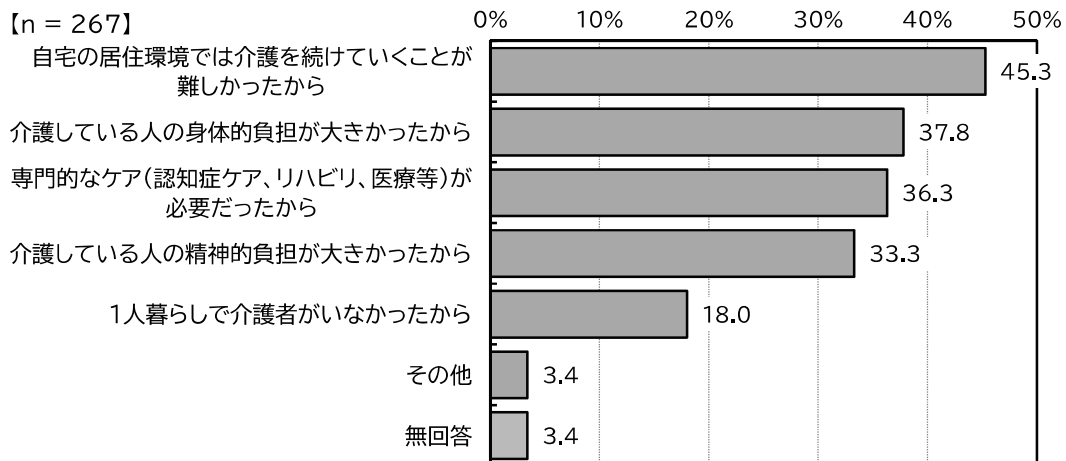


(4)施設サービス利用者調査結果

①介護保険施設に入所した理由

介護保険施設に入所した理由は、「自宅の居住環境では介護を続けていくことが難しかったから」が45.3%と最も多く、次いで「介護している人の身体的負担が大きかったから」(37.8%)、「専門的なケア(認知症ケア、リハビリ、医療等)が必要だったから」(36.3%)、「介護している人の精神的負担が大きかったから」(33.3%)、「1人暮らしで介護者がいなかったから」(18.0%)となっています。

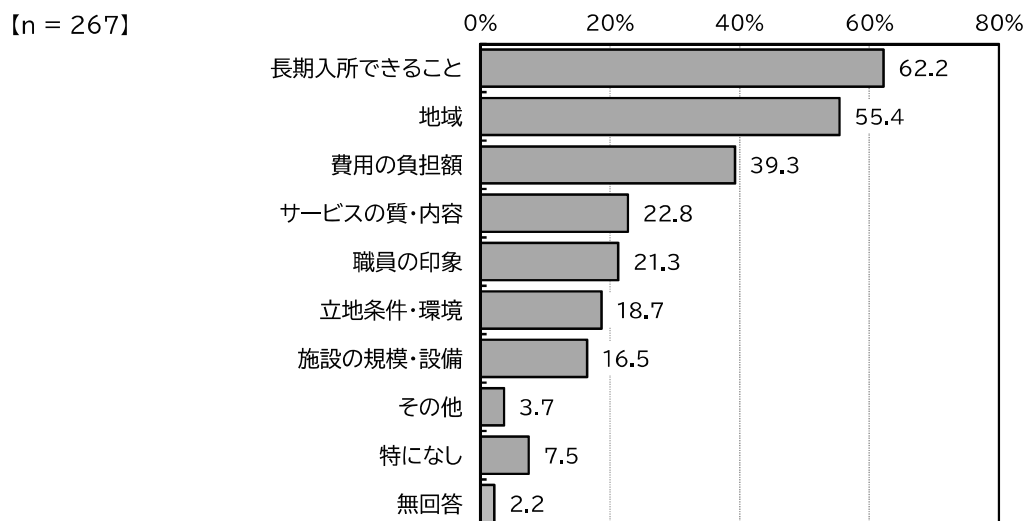
■介護保険施設に入所した理由



②介護保険施設を選ぶ際に重視したこと

介護保険施設を選ぶ際に重視したことは、「長期入所できること」が62.2%と最も多く、次いで「地域」(55.4%)、「費用の負担額」(39.3%)と続いています。

■介護保険施設を選ぶ際に重視したこと



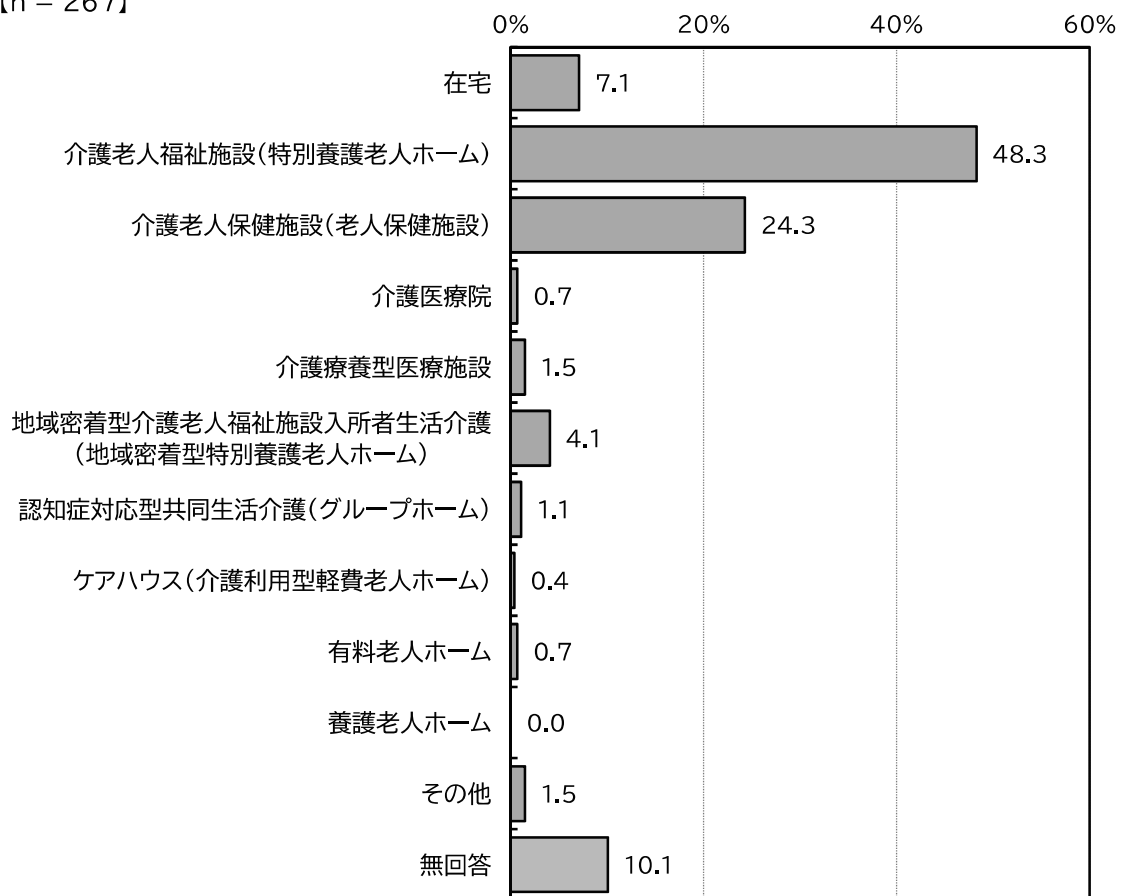
③今後どこで介護を受けたいか

本人の希望として、今後どこで介護を受けたいか尋ねると、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が48.3%と最も多く、次いで「介護老人保健施設（老人保健施設）」（24.3%）も比較的多い回答となっています。

また、「在宅」という回答も7.1%ありました。

■今後どこで介護を受けたいか

【n = 267】

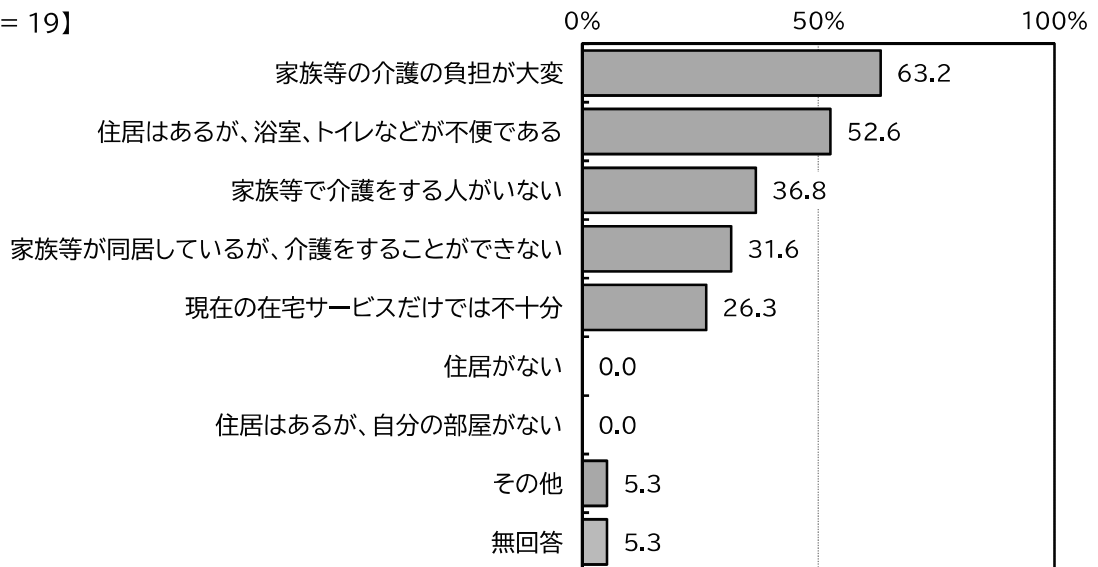


④在宅で生活する際に、問題になること

在宅で生活する場合、どのようなことが問題になると考えているか尋ねると、「家族等の介護の負担が大変」が63.2%と最も多く、次いで「住居はあるが、浴室、トイレなどが不便である」(52.6%)、「家族等で介護をする人がいない」(36.8%)と続いています。

■在宅で生活する際に、問題になること

【n = 19】

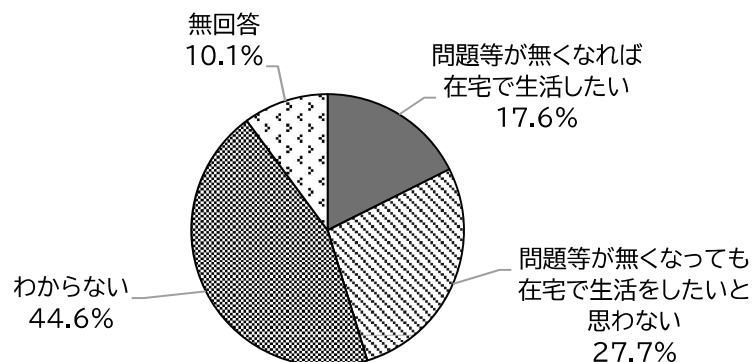


⑤在宅で生活をしたいか

在宅生活の問題となっている理由や問題が無くなった場合、在宅で生活をしたいか尋ねると、「問題等が無くなれば在宅で生活したい」を17.6%、「問題等が無くなっても在宅で生活をしたいと思わない」を27.7%が回答しています。

■在宅で生活をしたいか

【n = 267】



(5)在宅生活改善調査結果

①過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先は、管内の「住宅型有料老人ホーム」が24.7%と最も多く、次いで管内の「特別養護老人ホーム」(21.6%)、管内の「介護老人保健施設」(15.5%)となっています。

また、管内の居所変更が74.2%、管外への居所変更が24.2%となっています。

■過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

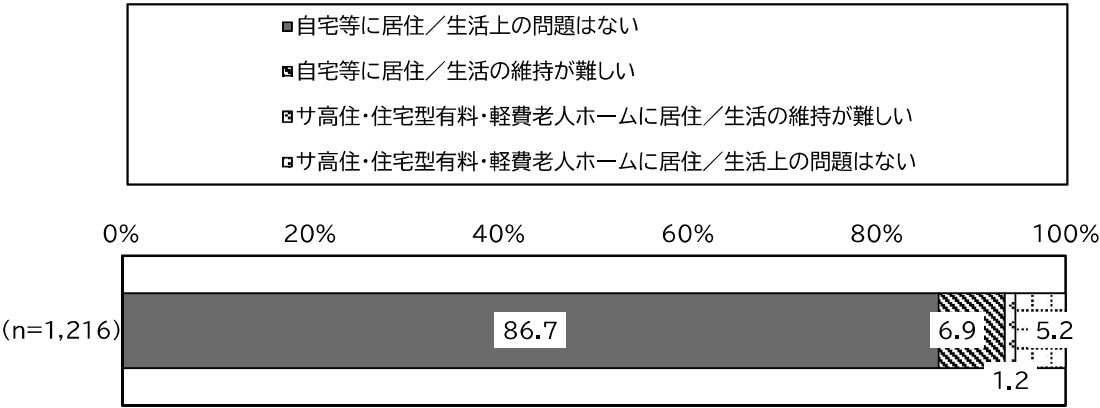
行先	管内	管外	合計
兄弟・子ども・ 親戚等の家	2人	8人	10人
	1.0%	4.1%	5.2%
住宅型有料	48人	12人	60人
	24.7%	6.2%	30.9%
軽費	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
サ高住	1人	1人	2人
	0.5%	0.5%	1.0%
GH	4人	1人	5人
	2.1%	0.5%	2.6%
特定	0人	0人	0人
	0.0%	0.0%	0.0%
地密特定	5人	0人	5人
	2.6%	0.0%	2.6%
老健	30人	5人	35人
	15.5%	2.6%	18.0%
療養型・ 介護医療院	1人	10人	11人
	0.5%	5.2%	5.7%
特養	42人	9人	51人
	21.6%	4.6%	26.3%
地密特養	5人	0人	5人
	2.6%	0.0%	2.6%
その他	6人	1人	7人
	3.1%	0.5%	3.6%
把握していない			3人
			1.5%
合計	144人	47人	194人
	74.2%	24.2%	100.0%

②在宅での生活維持が難しくなっている利用者

現在の在宅での生活維持の状況は、「自宅等に居住／生活上の問題はない」と「サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームに居住／生活上の問題はない」を合わせると91.9%が“生活上の問題はない”と回答しています。

一方、「自宅等に居住／生活の維持が難しい」と「サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームに居住／生活の維持が難しい」を合わせると 8.1%は“生活の維持が難しい”と回答となっており、調査票の回収率等を勘案すると、盛岡北部行政事務組合全体では149人程度が“生活の維持が難しくなっている”ものと推定されます。

■在宅での生活維持が難しくなっている利用者



(6) 居所変更実態調査結果

① 過去1年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合

過去1年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合は、233人の退居・退所者があり、そのうち135人は居所変更、98人は死亡となっています。

■ 過去1年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合

サービス種別	居所変更	死亡	合計
住宅型有料	17人	3人	20人
(n=4)	85.0%	15.0%	100.0%
軽費	0人	0人	0人
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%
サ高住	0人	0人	0人
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%
GH	3人	0人	3人
(n=2)	100.0%	0.0%	100.0%
特定	4人	3人	7人
(n=1)	57.1%	42.9%	100.0%
地密特定	0人	0人	0人
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%
老健	76人	30人	106人
(n=2)	71.7%	28.3%	100.0%
療養型・介護 医療院	23人	0人	23人
(n=1)	100.0%	0.0%	100.0%
特養	10人	60人	70人
(n=4)	14.3%	85.7%	100.0%
地密特養	2人	2人	4人
(n=1)	50.0%	50.0%	100.0%
合計	135人	98人	233人
(n=15)	57.9%	42.1%	100.0%

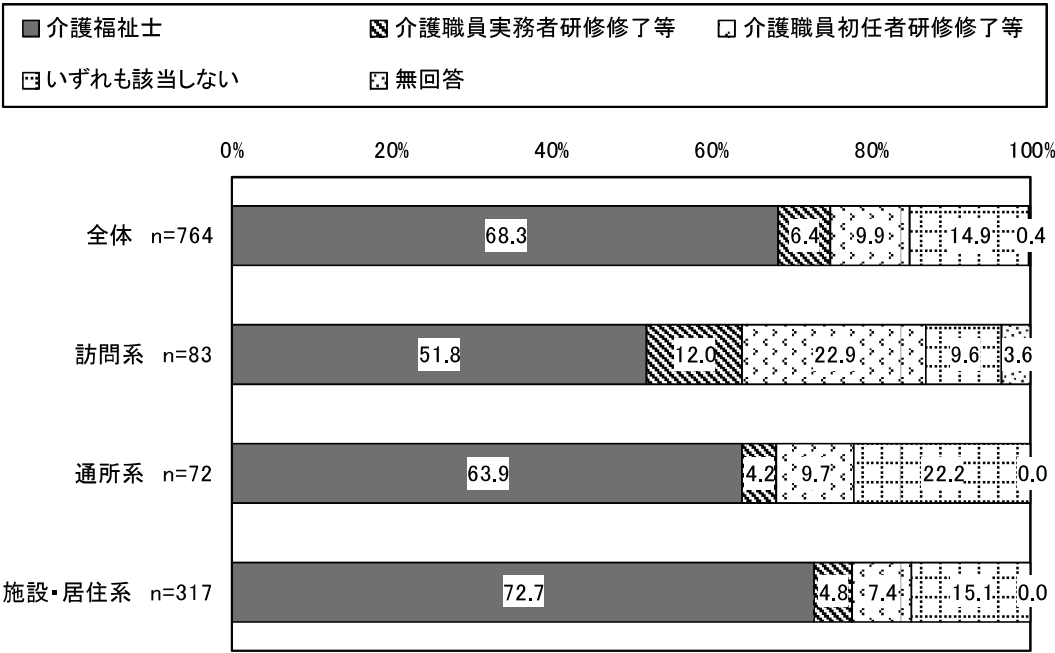
(7)介護人材実態調査結果

①サービス系統別の資格保有の状況

資格保有の状況について、全体では「介護福祉士」が68.3%、「介護職員実務者研修修了等」が6.4%、「介護職員初任者研修修了等」が9.9%となっています。

サービス系統別にみると、「通所系」と「施設・居住系」では、「介護福祉士」が6割以上となっています。

■サービス系統別の資格保有の状況

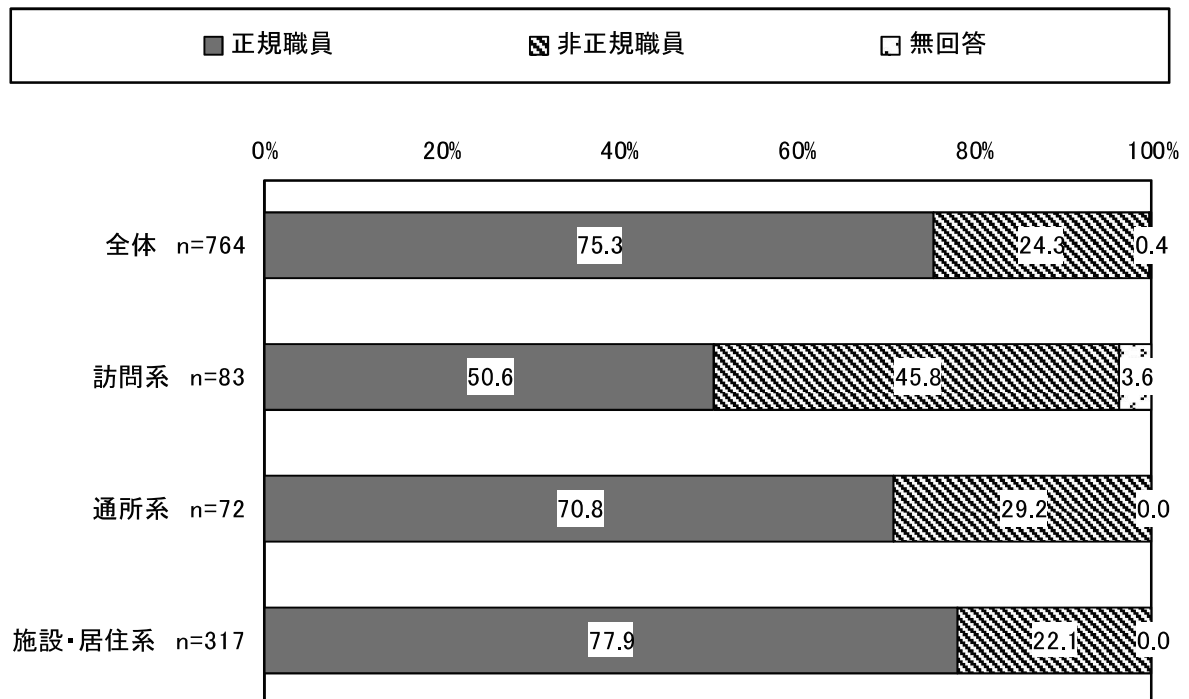


②正規職員、非正規職員の割合

正規職員、非正規職員の割合について、全体では「正規職員」が75.3%、「非正規職員」が24.3%となっています。

サービス系統別にみると、「通所系」と「施設・居住系」では、「正規職員」が7割以上となっています。

■正規職員、非正規職員の割合



③介護職員数の変化及び職場の変化

介護職員数の変化は、全体の採用者数は正規職員 48 人、非正規職員 30 人で合計 78 人の採用があり、離職者数は正規職員 39 人、非正規職員 16 人で合計 55 人の離職者がありました。

また、前職が介護職員の職場の変化は 20 人で、介護以外からの職場の変化は 50 人となっています。

■介護職員数の変化

サービス系統 (該当事業所数)	職員総数			採用者数		
	正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計
全サービス系統 (n=51)	571人	193人	764人	48人	30人	78人
訪問系(n=11)	41人	42人	83人	5人	1人	6人
通所系(n=11)	53人	19人	72人	3人	6人	9人
施設・居住系 (n=23)	398人	119人	517人	29人	22人	51人
サービス系統 (該当事業所数)	離職者数			昨年比		
	正規職員	非正規職員	小計	正規職員	非正規職員	小計
全サービス系統 (n=51)	39人	16人	55人	101.6%	107.8%	103.0%
訪問系(n=11)	4人	3人	7人	102.5%	95.5%	98.8%
通所系(n=11)	4人	6人	11人	98.1%	100.0%	97.3%
施設・居住系 (n=23)	25人	7人	32人	101.0%	114.4%	103.8%

■同一法人内での移動を除く、介護職員の職場の変化

前の職場	今の職場	人数	割合
施設・居住系	施設・居住系	8	11.4%
施設・居住系	訪問系	4	5.7%
施設・居住系	通所系	0	0.0%
訪問系	施設・居住系	0	0.0%
訪問系	訪問系	0	0.0%
訪問系	通所系	0	0.0%
通所系	施設・居住系	5	7.1%
通所系	訪問系	1	1.4%
通所系	通所系	0	0.0%
その他	施設・居住系	2	2.9%
その他	訪問系	0	0.0%
その他	通所系	0	0.0%
小計		20	28.6%
介護以外	施設・居住系	37	52.9%
介護以外	訪問系	8	11.4%
介護以外	通所系	5	7.1%
小計		50	71.4%
合計		70	100.0%